六 供 遺 跡 群 No.5

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００９．１２

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前の旧石器時代から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、８００余りの古墳が存在していたように、上毛野国の中心地として栄え、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担うなど、まさに、歴史性豊かな街です。

六供遺跡群№５は、市の南部に位置し、土地区画整理事業に伴う道路建設に先立つ発掘調査です。調査の結果、４世紀から６世紀に営まれた古墳時代の住居跡が発見されました。区画整理事業区域内には、かつて水田であった場所と畑であった場所があります。畑からは集落跡が見つかり、水田であった場所には古代も同じように水田が営まれておりました。今後、調査成果を積み重ねることにより、今まで知られていなかった本地域の古代の様子が解明されることが期待されます。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、汗にまみれながら直接作業に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 21 年 12 月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　　戸　塚　良　明

例　　言

1．本報告書は前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う六供遺跡群№5発掘調査報告書である。

2．調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は下記のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市六供町198番地9ほか
遺跡コード	21 H 47
発掘調査期間	平成21年6月15日～平成21年7月17日
整理・報告書作成期間	平成21年7月21日～平成21年12月28日
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）

4．本書の編集は山田が行なった。執筆分担はⅠを神宮　聡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、他を山田が担当した。

5．発掘調査及び整理作業参加者は以下のとおりである。

【発掘調査】　遠藤逸子　遠藤好則　大川悦子　大久保柾太郎　岡野　茂　川又隆一郎　坂田裕之　木村広美
高山　愛　田部井美砂子　平野ミツ子　本多和子　丸山和浩　矢内ヒロ子

【整理作業】　木村広美　下田順子　高山　愛　瀧澤佳子　福島禄子　堀越晴子　山下雅江

6．発掘調査・整理作業全般において前田和昭・佐野良平・中村岳彦・大川明子（技研測量設計株式会社）の助力を得た。

7．発掘調査で出土した遺物及び図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図『前橋』を使用した。

3．遺構及び遺構施設の略称は次のとおりである。

H･･･竪穴住居跡　D･･･土坑　P･･･ピット
W･･･溝跡　I･･･井戸　X･･･その他

4．土層・遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠る。

5．遺構・遺物の図面の縮尺は原則として以下の通りである。その他は、各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡･墓･溝･井戸･土坑･ピット･･･1/60　竈断面･･･1/30

遺物　土器･･･1/3　石器･石製品･･･1/1、1/2

6．計測値については(　)は現存値、[　]は復元値を表す。

7．トーン▨は地山、太線は遺構面を示す。

8．遺物実測図、遺構図のトーン表現は以下の通りである。

須恵器（還元焔焼成）　石器磨面　床硬化範囲　灰・焼土・粘土

9．主な火山降下物当の略称と年代は次のとおりである。

As-B(浅間B軽石：供給火山･浅間山、1108年)
Hr-FP(榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山･榛名山、6世紀中葉)
Hr-FA(榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山･榛名山、6世紀初頭)
As-C(浅間C軽石：供給火山･浅間山、4世紀前半)

目　　次

はじめに

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境……1
Ⅲ　調査の方針と経過……3
Ⅳ　基本層序……3
Ⅴ　遺構と遺物……5
Ⅵ　まとめ……15

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置及び周辺遺跡分布図・・・・・・・・・Ⅳ
Fig.2　周辺遺跡と六供遺跡群・・・・・・・・・・・・・2
Fig.3　基本土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Fig.4　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Fig.5　H－1号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・17
FIg.6　H－2～4号住居跡・・・・・・・・・・・・・・18
Fig.7　H－5・9号住居跡・・・・・・・・・・・・・・19
Fig.8　H－6・11号住居跡・・・・・・・・・・・・・・20
Fig.9　H－10号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・21
Fig.10　H－7号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・22
Fig.11　H－12・14号住居跡・・・・・・・・・・・・・・23
Fig.12　H－13号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・24
FIg.13　H－8号住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・25
Fig.14　H－8・15号住居・・・・・・・・・・・・・・・26
Fig.15　H－16号住居、I－1号井戸、D－1～3号土坑・・27
Fig.16　W－1・2号溝・・・・・・・・・・・・・・・・28
Fig.17　H－1～7号住居出土遺物・・・・・・・・・・・29
Fig.18　H－7・8号住居跡出土遺物・・・・・・・・・・30
Fig.19　H－8～10号住居跡出土遺物・・・・・・・・・・31
Fig.20　H－10～15号住居跡、D－2号土坑、
W－1・2号溝、X－1号墓出土遺物・・・・・・・32

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・2
Tab.2　土坑計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
Tab.3　出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・3

写真図版目次

PL.1　調査区全景
PL.2　H－1～5・7・8号住居跡
PL.3　H－9～15号住居跡
PL.4　H－15・16号住居跡、I－1号井戸、D－1～3号土坑、
X－1号、調査風景
PL.5　出土遺物
PL.6　出土遺物

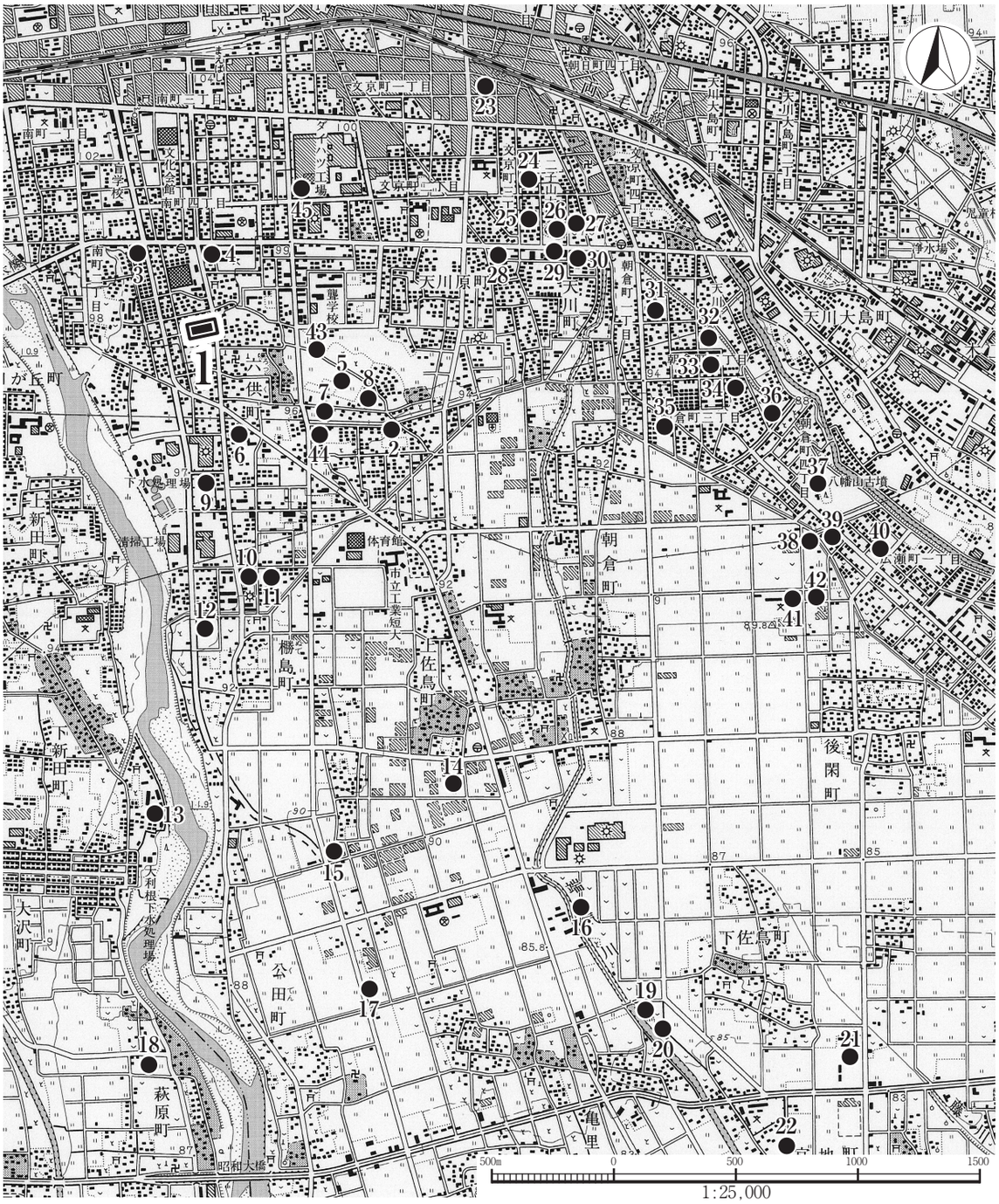


Fig. 1　遺跡位置及び周辺遺跡分布図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	六供遺跡群No.5	11	東京安寺遺跡	21	東田遺跡	31	小旦那遺跡	41	後閑遺跡
2	六供遺跡群	12	棚島川端遺跡	22	宮地田中遺跡	32	朝倉2号墳	42	後閑Ⅱ遺跡
3	生川遺跡	13	下新田遺跡	23	不二山古墳Ⅰ・Ⅱ	33	長山遺跡	43	六供東京安寺遺跡
4	西天神遺跡	14	上佐鳥中原前遺跡	24	寄居遺跡	34	朝倉1号墳	44	六供下堂木Ⅳ遺跡
5	六供下堂木Ⅱ遺跡	15	公田東遺跡	25	県立文書館遺跡	35	鎮守廻り遺跡	45	文京町No.1遺跡
6	六供中京安寺遺跡	16	下佐鳥遺跡	26	天川二子山古墳	36	朝倉3号墳		
7	六供下堂木Ⅲ遺跡	17	公田池尻遺跡	27	二子山前Ⅳ遺跡	37	八幡山古墳		
8	六供下堂木遺跡	18	萩原団地遺跡	28	二子山前遺跡	38	後閑団地遺跡		
9	中大門遺跡	19	宿阿内城内遺跡	29	二子山前Ⅱ遺跡	39	坊山遺跡		
10	南京安寺遺跡	20	川曲遺跡	30	二子山前Ⅲ遺跡	40	天神山古墳		

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴い平成 21 年 2 月 19 日に実施した試掘調査結果を踏まえ、平成 21 年 4 月 2 日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第一課）より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受けた前橋市教育委員会より、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長 戸塚良明 (以下「調査団」という。) に発掘調査実施について協議があった。しかし、調査団では既に市内数ヶ所において直営による発掘調査が予定されており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、5 月 29 日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、6 月 3 日付けで調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査開始に至る。

なお、遺跡名称「六供遺跡群№5」（遺跡コード：21H47）の「六供遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「5」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

六供遺跡群№5 は前橋市六供町 198-9 ほかに所在し、JR 前橋駅の南約 1.2Km に位置する。周辺には前橋･玉村線をはじめ主要な幹線道が走り、これら幹線に沿って市街化･開発が進み、本遺跡も住宅街の一画にあたる。

本遺跡は前橋台地上の東方、利根川左岸に位置し、標高は約 98.0 m から 98.3 m で、東から西へ緩やかに傾斜している。前橋台地は浅間山噴火に起因する火山泥流堆積土と、それを被覆する水成ローム層から成る洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、北西には榛名山麓東南域に広がる相馬ヶ原扇状地の端部が迫っている。なお、本遺跡の西側を流れる利根川はかつて広瀬川低地帯を流れていたと考えられており、現在の流路となったのは天文年間 (1540 年頃) 以降とされている。

本遺跡の周辺の歴史は縄文時代草創期後半の「 撚糸文式土器 」の見つかった櫛島川端遺跡にはじまり、弥生時代には隣接する高崎市で日高遺跡等から As-C 軽石下の水田検出が相次いでいる。

古墳時代に入ると広瀬川の右岸、旧市域から旧上陽村の東善にかけて帯状に連なる古墳群地帯を形成し、昭和 10 年の県下一斉調査では、前橋市 15 基、旧上川淵村 113 基、隣接する旧上陽村 41 基を数えた。しかしながら、後世の開墾や宅地造成により大半は未調査のまま削平されている。現在では八幡山古墳 (国指定史跡、 4 世紀後半、前方後方墳、全長約 130 m)、前橋天神山古墳 (県指定史跡、 4 世紀後半、前方後円墳、全長約 129 m) 等が、当時の古墳群の面影を残し、当地域が古墳時代初期から継続的に発展していたことを窺わせる。また、住居跡関連では古墳時代前期の六供下堂木Ⅱ遺跡、六供中京安寺遺跡が、古墳時代後期の後閑Ⅱ遺跡、坊山遺跡、川曲遺跡等が確認されている。水田跡関連では、Hr-FA 下の水田が、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、六供下堂木Ⅱ遺跡等で検出されている。

古代に入ると、本遺跡近隣では六供下堂木Ⅱ･Ⅲ遺跡、六供中京安寺遺跡で住居跡が検出されている。また、中大門遺跡、後閑Ⅱ遺跡をはじめ、条里制の面影を残す水田跡が確認されている。特に、宮地中田遺跡では As-B 下より平安時代後期の水田跡が 92 枚検出され、東西 3 本、南北 1 本の方形区画の条里水田跡が確認された。これは高崎東部･北部で確認された条里制水田跡が利根川を挟み、前橋南部まで及んでいたことを示している。

本遺跡の近隣では古墳時代を含め、奈良･平安時代の住居跡と水田跡が多く確認されており、当時の土地利用についての考察･復元が試みられている。今後の発掘調査等による資料の蓄積をとおして、より詳細な土地利用のあり方を解明していくことが期待される。

Fig. 2　周辺遺跡と六供遺跡群No.5

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業六供土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約 700 ㎡である。グリッド座標については、日本測地系 (Tokyo Datum) 平面直角座標系第Ⅸ系に準拠した、４ｍピッチの方眼杭を打設した。

本遺跡のＸ０・Ｙ０の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系　　Ｘ =41200.000　　Ｙ = － 67800.000

世界測地系　　Ｘ =41554.964　　Ｙ = － 68091.829

調査方法については、排土置場等の関係から調査地内での折り返し調査を行なうこととし、調査区東半･西半の順に、表土掘削･遺構確認･杭設定･遺構掘下げ･遺構精査･測量及写真撮影の手順で実施した。図面作成はトータルステーションによる測量を行ない、写真記録は 35mm モノクロ･リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いた。なお、整理作業にあたっては、DTP 的手法を用いて本文･図面･図版まで全ての作業をパーソナルコンピュータによるデジタル編集を行ない、報告書を作成した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は６月 15 日に、調査区東半の重機による表土掘削から開始した。表土掘削後に遺構確認を行なったが、後世の攪乱が広範囲に亘り、遺構の残存状況は芳しくなかった。Ｈ－ 16 号住居跡及び３基の土坑を確認し、順次、掘下げを行なった。なお、Ｈ－１･Ｈ－ 15 号住居跡もこの段階で確認したが、Ｈ－１号住居跡を切るＨ－ 15 号住居跡の大半が未掘削の調査区西半に掛かっており、両住居跡の掘下げについては調査区西半での調査時に実施することとした。６月 23 日に図面作成、写真撮影を実施し、調査区東半の調査を終了した。

６月 24 日･ 25 日に調査区東半の埋め戻しと調査区西半の表土掘削を行ない、６月 29 日より遺構確認を開始した。調査区西半では攪乱を受けているものの、遺構の残存状況は比較的良好であった。以後、遺構確認･掘下げ･各種記録作成等を併行して実施し、７月 16 日に現地での全調査を終了、17 日に埋め戻しを行なった。

Ⅳ　基本層序

Ⅰ層が表土層、Ⅱ層が攪乱土層である。Ⅱ層の攪乱土層は調査区全面に見られ、直近の土地利用から宅地造成に伴う攪乱と考えられ、石油製品･空き缶等を含んでいる。遺構確認面はⅢ層としたローム層、Ⅲ－１層上面にあたる。

なお、Ⅰ･Ⅱ層は共に細分層が可能であるが、場所により堆積する土の違いがあるため、詳細については各土層断面図の中で提示する。

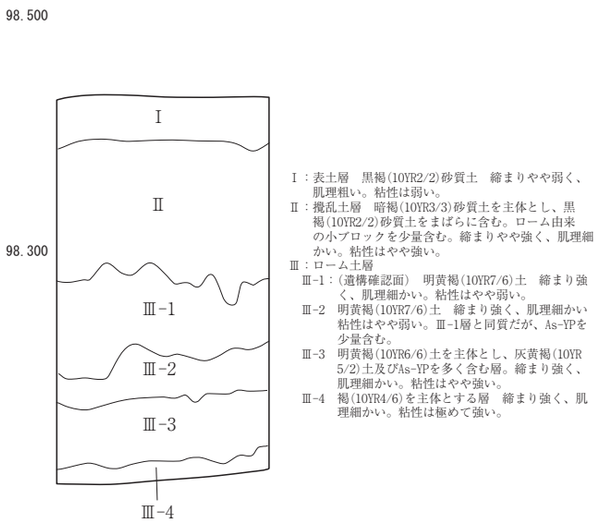


Fig３　基本土層図

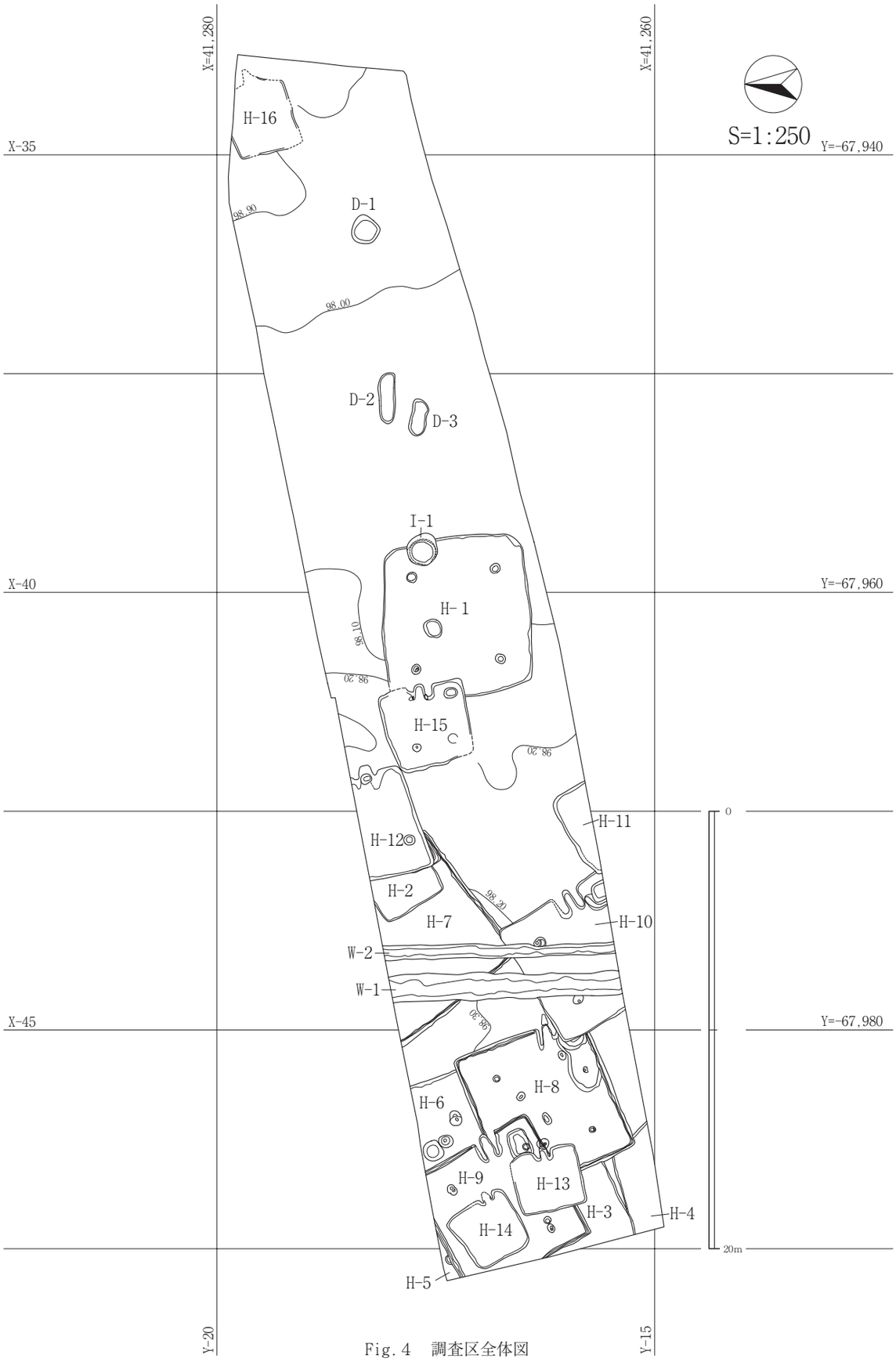

X=41,280
X=41,260
S=1:250
X-35
Y=-67,940
H-16
D-1
98.00
98.00
D-2
D-3
I-1
X-40
Y=-67,960
H-1
98.80
98.20
H-15
98.20
H-11
0
H-12
H-2
98.20
H-7
H-10
W-2
W-1
X-45
Y=-67,980
98.20
H-8
H-6
H-9
H-13
H-3
H-4
H-14
20m
H-5
Y-20
Y-15

Fig. 4　調査区全体図

V　遺構と遺物

竪穴住居跡 16 軒、溝２条、井戸１基、土坑３基、その他 (墓)1 基を検出し。以下は各遺構の概要である。

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡 (Fig ５、PL ２・５)

位置　Ｘ－ 39 ～－ 41、Ｙ－ 16 ～－ 18 グリッド　主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ　規模　6.90 ｍ× 7.47 ｍ、壁現高 0.18 ｍ。　面積　(41.53) ｍ　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　炉　住居中央やや北に位置する。　重複　Ｈ－ 15・Ｉ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－ 15 →Ｉ－１の順である。　出土遺物　土師器坏･高坏･甕、鞴羽口　時期　４世紀後半

Ｈ－２号住居跡 (Fig ６、PL ２・５)

位置　Ｘ－ 43、Ｙ－ 17・－ 18 グリッド　主軸方向　Ｎ－ 59°－Ｅ　規模　（3.31）ｍ× 3.18 ｍ、壁現高 0.71 ｍ。　面積　(4.68) ｍ　床面　平坦で、硬化は弱い。　竈　不明。　重複　Ｈ－７･Ｈ－ 12 と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－７→Ｈ－ 12 の順である。　出土遺物　土師器高坏　時期　５世紀中葉

Ｈ－３号住居跡 (Fig ６、PL ２・５)

位置　Ｘ－ 46・－ 47 、Ｙ－ 15・－ 16 グリッド　主軸方向　Ｎ－ 64°－Ｅ　規模　（3.68）ｍ×（4.29）ｍ、壁現高 0.14 ｍ。　面積　(6.26) ｍ　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　竈　不明。　重複　Ｈ－４･Ｈ－８･Ｈ－９･Ｈ－ 13 と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－４→Ｈ－８→Ｈ－９→Ｈ－ 13 の順である。　出土遺物　土師器甕　時期　５世紀後半以前

Ｈ－４号住居跡 (Fig ６、PL ２・５)

位置　Ｘ－ 46・－ 47、Ｙ－ 14・－ 15 グリッド　主軸方向　Ｎ－ 75°－Ｅ　規模　（4.87）ｍ×（2.00）ｍ、壁現高 0.80 ｍ。　面積　(6.59) ｍ　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　竈　不明。　重複　Ｈ－３･Ｈ－８と重複しており、新旧関係はＨ－３→本遺構→Ｈ－８の順である。　出土遺物　土師器坏　時期　５世紀後半以前。

Ｈ－５号住居跡 (Fig ７、PL ２・５)

位置　Ｘ－ 47、Ｙ－ 17 グリッド　主軸方向　不明。　規模　（2.99）ｍ×（0.92）ｍ、壁現高 0.35 ｍ。　面積　(0.71) ｍ　床面　ほぼ平坦で、硬化は弱い。　竈　不明。　重複　Ｈ－９と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－９の順である。　出土遺物　土師器高坏　時期　５世紀後半以前

Ｈ－６号住居跡 (Fig ８)

位置　Ｘ－ 45･－ 46、Ｙ－ 17 グリッド　主軸方向　Ｎ－ 70°－Ｅ　規模　（3.89）ｍ×（3.05）ｍ、壁現高 0.27 ｍ。　面積　(13.96) ｍ　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　竈　不明。　重複　Ｈ－８･Ｈ－９と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－８→Ｈ－９の順である。　出土遺物　土師器壺･甕　時期　切り合い及び埋土遺物から５世紀後半以前と思われる。

Ｈ－７号住居跡 (Fig10・PL ２・５)

位置　Ｘ－ 42 ～－ 45、Ｙ－ 16 ～－ 18 グリッド　主軸方向　Ｎ－ 51°－Ｅ　規模　（7.23）ｍ×（7.06）ｍ、壁

現高 0.60 m。　面積　(26.00) m　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　竈　不明。　重複　H－2・H－10・H－12 及びW－1・W－2と重複しており、新旧関係はH－2→本遺構→H－10・H－12 →W－1・W－2の順である。　出土遺物　土師器坏・高坏　時期　5世紀中葉～後半

H－8号住居跡 (Fig13、PL 5)

位置　X－44～－46、Y－15～－17グリッド　主軸方向　N－68°－E　規模　(6.89) m×(6.42) m、壁現高 0.36 m。　面積　(29.76) m　床面　ほぼ平坦で、堅緻。　竈　東壁の南寄りに位置する。全長 109.0cm、最大幅 41.4cm、構築材に粘土を用いる。　重複　H－3・H－4・H－6・H－9・H－10・H－13 と重複しており、

新旧関係はH－3・H－4・H－6→本遺構→H－9・H－10 →H－13 の順である。　出土遺物　土師器坏・壺・甕、須恵器甕　時期　5世紀後半

H－9号住居跡 (Fig 7、PL 3・6)

位置　X－46・－47、Y－15～－17グリッド　主軸方向　N－59°－E　規模　(6.41) m×(6.39) m、壁現高 0.33 m。　面積　(17.75) m　床面　ほぼ平坦で、ローム小ブロックを含む貼床を施す。硬化はやや弱い。　竈　東壁の南寄りに位置する。全長 126.0cm、最大幅 53.4cm。　重複　H－3・H－5・H－6・H－8・H－13・H－14 と重複しており、新旧関係はH－3・H－5・H－6→H－8→本遺構→H－13・H－14 の順である。　出土遺物　土師器坏・高坏・甕、臼玉　時期　5世紀後半～6世紀前半

H－10 号住居跡 (Fig 9、PL 3・6)

位置　X－43～－45、Y－15・－16グリッド　主軸方向　N－56°－E　規模　(6.22) m×(5.54) m、壁現高 0.62 m。　面積　(23.95) m　床面　東から西へ緩やかに傾斜する。ローム小ブロックを含む貼床を施し、硬化はやや強い。　竈　東壁中央に位置する。全長 117.3cm、最大幅 42.3cm、構築材に粘土を用いる。　重複　H－7・H－8・H－11 及びW－1・W－2と重複しており、新旧関係はH－7・H－8→本遺構→H－11 →W－1・W－2の順である。　出土遺物　土師器坏・高坏、管玉　時期　6世紀前半

H－11 号住居跡 (Fig 8、PL 3)

位置　X－42・－43、Y－15・－16グリッド　主軸方向　N－61°－E　規模　(4.10) m×(1.88) m、壁現高 0.32 m。　面積　(3.90) m　床面　ほぼ平坦で、硬化は弱い。　竈　不明。　重複　H－10 と重複しており、新旧関係はH－10 →本遺構の順である。　出土遺物　土師器高坏　時期　6世紀以降

H－12 号住居跡 (Fig11、PL 3・6)

位置　X－42・－43、Y－17・－18グリッド　主軸方向　N－77°－E　規模　(5.24) m×(3.05) m、壁現高 0.21 m。　面積　(11.05) m　床面　ほぼ平坦でやや堅緻。ローム小ブロックを含む貼床を施す。竈前面に硬化面あり。　竈　東壁中央に位置する。全長 99.0cm、最大幅 63.6cm、構築材に粘土を用いる。　重複　H－2 及びH－7と重複しており、新旧関係はH－2→H－7→本遺構の順である。　出土遺物　土師器坏　時期　6世紀前半～中葉

H－13 号住居跡 (Fig12、PL 3・6)

位置　X－46・－47、Y－15・－16グリッド　主軸方向　N－76°－E　規模　3.04 m× 3.12 m、壁現高 0.19 m。

面積　(7.33) m　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈前面に若干の硬化面あり。　竈　東壁の中央に位置する。全長 72.8cm、最大幅 35.2cm、構築材に粘土を用いる。　重複　H－3・H－8・H－9と重複しており、新旧関係はH－3→H－8→H－9→本遺構の順である。　出土遺物　土師器壺・坏。壺は混入遺物と思われる。　時期　6世紀前半～中葉

H－14 号住居跡 (Fig11、PL 3・6)

位置　X－46・－47、Y－16・－17グリッド　主軸方向　N－ 57°－E　規模　(3.01)m× 3.05 m、壁現高0.18 m。　面積　(7.07) m　床面　ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。　竈　東壁やや南よりに位置するが、攪乱により上部は崩壊している。　重複　H－9と重複しており、新旧関係はH－9→本遺構の順である。　出土遺物　土師器坏・甕　時期　6世紀後半　備考　H－5と重複している可能性がある (H－5→H－9→本遺構)。

H－15 号住居跡 (Fig14、PL 3・4・6)

位置　X－41、Y－17・－18グリッド　主軸方向　N－ 81°－E　規模　(3.93) m×（3.97）m、壁現高 0.25 m。　面積　(11.88) m　床面　ほぼ平坦で非常に堅緻。竈前面に硬化面あり。　竈　東壁中央に位置する。全長 76.8cm、最大幅 48.6cm、構築材に粘土を用いる。　重複　H－1と重複しており、新旧関係はH－1→本遺構の順である。　出土遺物　土師器坏、石製模造品　時期　6世紀後半～7世紀

H－16 号住居跡 (Fig15・PL 4)

位置　X－34、Y－19グリッド　主軸方向　N－ 77°－E　規模　(3.95) m×（3.18）m、壁現高 0.06 m。　面積　(8.59)m　床面　ほぼ平坦でやや堅緻。　竈　不明 (東か)。　出土遺物　土師器坏・甕が出土したが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。　時期　埋土及び出土遺物から6世紀後半～7世紀か。　備考　住居を寸断するように著しい攪乱を受けているが、住居東側の床面直上に口縁部を下にした甕を検出した。原位置を保っていると仮定すれば、竈袖部になる可能性も考えられる。

（2）溝跡

W－1号溝跡 (Fig16)

位置　X－44、Y－15～－18グリッド　主軸方向　N－ 179°－E　長さ　10.69 m　最大幅　上端 1.36 m、下端 0.71 m。　深さ　0.15 m　形状等　台形　重複　H－7・H－9と重複しており、新旧関係はH－9→H－7→本遺構の順である。　出土遺物　土師器坏、須恵器甕、陶磁器等が出土したが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。　時期　埋土中の遺物より、近世以前と考えられる。

W－2号溝跡 (Fig16、PL 6)

位置　X－44、Y－15～－18グリッド　主軸方向　N－ 179°－E　長さ　10.66 m　最大幅　上端 0.69 m、下端 0.36 m。　深さ　0.39 m　形状等　台形　重複　H－7・H－9と重複しており、新旧関係はH－9→H－7→本遺構の順である。　出土遺物　陶磁器埦　時期　埋土中の遺物より、近世以前と考えられる。

（3）井戸

I－1号井戸跡 (Fig15・PL 4)

位置　X－39、Y－17グリッド　形状等　円形。上幅 (1.45) × (1.25) m、深さ (2.18) m。　重複　H－16と重複しており、新旧関係はH－16→本遺構の順である。　出土遺物　土師器坏・高坏・甕、須恵器甕等が出土したが、

流れ込みと思われる。また、いずれも小破片のため図示には至らなかった。　**時期**　切り合い及び埋土から、近世以降と考えられる。　**備考**　深さは、現状よりさらに1.5 m以上深くなることを現地で確認したが、安全面等を考慮し、途中で発掘を停止している。

（4）土坑

土坑については、Tab. 2の土坑計測表を参照のこと。

（5）その他

X－1号跡 (Fig 9他・PL 4・6)

位置　X－43、Y－15グリッド　**形状等**　断面台形。深さ(0.25) m。　**重複**　H－6・H－7と重複しており、新旧関係はH－7→H－6→本遺構の順である。　**出土遺物**　歯片、古銭　**時期**　埋土中の遺物より、中世以降と考えられる。　**備考**　調査区南壁での先行トレンチ調査による掘下げにより損壊させてしまい、平面形を確認することはできなかった。しかしトレンチ幅等を考慮すると、主体は調査区外南側へ広がるものと思われる。埋土は砂質土を主体とし、焼土等は認められない。出土遺物から中世以降の葬送に関連する遺構と考えられる。なお、出土した古銭は繊維質(織布)が付着し、複数枚を纏めていたと思われるが今回の調査では1枚のみの確認である。織布付着のため、銭種は不明である。

Tab. 2　土坑計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
D-1	X35・36、Y18	1.25	1.24	0.46	楕円形		
D-2	X37・38、Y17・18	1.69	0.84	0.17	楕円形		
D-3	X37・38、Y17	2.29	0.81	0.20	楕円形		

Tab. 3　出土遺物観察表

H-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　高杯	－	－	(4.2)	白・黒・橙色粒、石英	良好	橙色	外面頸部ヨコナデ、以下磨滅のため不明。ミガキか？ 内面ナデ。	脚部のみ。裾部欠損
2	床面直上	土師器　壺	(24.3)	－	(2.8)	白・茶色粗粒	良好	明黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ後ミガキ。 内面ハケナデ又はくし状工具によるナデ。	口縁部片
3	床面直上	土師器　S字甕	(14.7)	－	(4.0)	白・橙色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ロクロによるヨコナデ、以下ハケ目。 内面口縁部ロクロによるヨコナデ、以下ヨコナデ。	口縁1/2弱残存
4	床面直上	土師器　甕	－	脚部8.8	(5.8)	石英、長石、黒色粒	良好	明赤褐色	外面脚部上半ハケケズリ、下半ユビナデ。 内面ハケナデ後ユビナデ。	脚部4/5残存
5	覆土	土師器　フイゴ	－	－	(5.3)	白・赤色粒	良好	橙色	外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 外内面上部被熱により変色。	破片

H-2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　高杯	16.1	－	(6.9)	橙色粗粒	軟質	橙色	外面回転ナデ？底部ヘラケズリ。全体に磨滅。 内面ヘラナデ後回転ナデ？全体に磨滅。	坏部ほぼ完存

H-3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　甕	(19.6)	－	(9.6)	白・黒・橙色粒	良好	黒褐色 にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～肩1/5残存

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	石製品 こも編石	13.3	5.5	4.2	安山岩	－	－	462.1	表面2ヶ所・裏面1ヶ所あばた状の敲打痕有。側面に稜を持ち磨石として利用か？（6面）	完存

H-4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	10.6	丸底	5.5	白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	ほぼ完形

H-5

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　高杯	(23.2)	－	(5.0)	白・橙色粒、黒雲母	良好	にぶい褐色	外面坏部回転ナデ後ミガキ。有段。 内面坏部回転ナデ後底部ミガキ。	坏部1/3残存
2	床面直上	土師器　高杯	－	－	(6.6)	白・黒色細粒、橙色粗粒	良好	明赤褐色	外面ヨコナデ。 内面ヘラナデ。端部ヨコナデ。	脚部2/3残存

H-6

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　壺	－	(2.8)	(10.8)	石英、長石、雲母	良好	橙色	外面ヘラケズリ後ミガキ。 内面ユビナデ。	体部1/3残存
2	床面直上	土師器　甕	(18.8)	－	(5.5)	白・黒・橙色粒、小礫	良好	にぶい褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	口縁部～肩部片

H-7

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(14.3)	丸底	(6.4)	白・黒色粒、石英	良好	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビナデ。	3/4残存
2	床面直上	土師器　坏	13.9	-	4.3	赤色小粒、石英、長石	良好	橙色	外面ヘラケズリ後ミガキ。 内面回転ナデ後ミガキ。	完形
3	床面直上	土師器　高杯	21.3	-	7.4	白・橙色粒	良好	橙色	内外面ミガキ。口唇部稜を持つ、以下ミガキ後二条の沈線を巡らす。坏底部有段。	坏部4/3残存
4	床面直上	土師器　高杯	18.0	-	5.7	橙色粗粒、白・黒色粒、黒雲母	良好	にぶい橙色	内外面ミガキ。	坏部のみほぼ完形
5	床面直上	土師器　高杯	18.5	-	6.5	白・黒・橙色粒	良好	にぶい黄橙色	内外面ミガキ。	坏部のみほぼ完形

H-8

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　瓮	(13.4)	-	(3.8)	白色鉱物	堅緻	暗灰色	外面ロクロによるヨコナデ。頸部櫛描波状文。 内面ロクロによるヨコナデ。自然釉付着。有段口縁（２段）。	口縁部片
2	床面直上	土師器　坏	14.4	丸底	5.4	白・赤・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	ほぼ完形
3	床面直上	土師器　坏	13.7	丸底	5.3	白色粒、石英、黒雲母	良好	明赤褐色 橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	ほぼ完形
4	床面直上	土師器　坏	13.0	丸底	5.3	白・赤色粒、黒雲母	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	口縁部～体部一部欠損
5	床面直上	土師器　坏	13.1	丸底	5.4	白・赤色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデとミガキ。	4/5残存
6	床面直上	土師器　坏	13.6	丸底	5.5	白・赤色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	4/5残存
7	床面直上	土師器　坏	13.9	丸底	(5.5)	白色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、底部ナデ。	3/4残存
8	床面直上	土師器　坏	14.7	丸底	6.4	白・黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	2/3残存（蓋模倣坏）
9	床面直上	土師器　？	13.3	6.0	6.5	白・赤色粒	軟質	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ後ユビナデ。底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	完形。外面煤付着
10	床面直上	土師器　壺	8.6	4.6	13.7	白・黒・赤色粒、黒雲母、小礫	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ後縦位ヘラナデ、以下ハケケズリ後ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損 内面粘土帯顕著
11	床面直上	土師器　甕	15.2	-	(10.0)	白・黒・橙色粒	良好	黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～肩部
12	床面直上	土師器　甕	(13.6)	-	(11.2)	赤色粒、石英、長石	良好	赤色	外面口縁～頸部回転ナデ、胴部ヘラケズリ後ミガキ。 内面口縁～頸部回転ナデ、胴部ナデか。内面に接合痕。	口縁～胴部1/3残存 内外面赤彩あり
13	床面直上	土師器　甕	-	7.2	(9.8)	白・赤色粒、黒雲母	良好	灰黄褐色	外面ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ後ユビナデ。 内面ヘラナデ、底部ハケナデ。	胴下半～底部 内・外面煤付着
14	床面直上	土師器　甕	(16.6)	6.5	30.3	白・黒・赤色粒、黒雲母、小礫	良好	にぶい橙色 明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヘラナデ後ユビナデ、以下ヘラナデ及びハケナデ。	3/5残存 内・外面煤付着
15	床面直上	土師器　甕	(17.1)	7.2	28.2	白・黒・橙色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～胴上部1/2欠損 内・外面煤付着
16	床面直上	土師器　甕	17.7	6.1	27.2	白・黒・赤色粒、黒雲母	良好	橙色 明褐色	外面口縁部ヨコナデ、肩部ハケナデ以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、頸下部ハケナデ、以下ヘラナデ。	胴部1/4欠損 内・外面煤付着
17	床面直上	土師器　甕	(16.6)	-	(28.7)	白・赤・黒色粒	良好	橙色 にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ（ヘラあたり痕有）、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヘラケズリ後ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁部～体部1/2弱残存 内・外面煤付着
18	床面直上	土師器　甕	15.8	-	(26.3)	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	明赤褐色 橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	胴下半～底部欠損 外面煤付着

H-9

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	13.6	丸底	5.2	白・赤色粒、黒雲母	良好	橙色 明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	3/4残存
2	床面直上	土師器　坏	14.2	-	5.1	赤色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	1/2残存
3	床面直上	土師器　高杯	-	-	(6.6)	白・赤・黒色粒	やや軟質	橙色	外面ヘラケズリ後ミガキ。 内面ヘラケズリ。	脚部片
4	床面直上	土師器　高杯	-	-	(5.7)	白色粒、石英	軟質	灰黄褐色 黒色	外面ヘラケズリ後ユビナデ。 内面坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。	脚部
5	覆土	土師器　壺	18.2	-	(5.6)	白色粒、石英	軟質	赤褐色 にぶい黄橙色	内外面ともにヨコナデ。焼成あまく磨滅強い。	口縁部片3/5残存

番号	出土位置	種別、器種	直径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	床面直上	石製品　臼玉	0.55	0.18	0.15	頁岩	-	-	0.08	全面研磨。	完存
7	床面直上	石製品　臼玉	0.6	0.5	0.25	滑石	-	-	0.3	全面研磨。円孔比較的大。	完存

H-10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(12.8)	丸底	(3.8)	赤色小粒、チャート、雲母	良好	にぶい赤褐色	外面回転ナデ、底部にかけてヘラケズリ。 内面回転ナデ。暗文。	1/4残存
2	床面直上	土師器　坏	(15.7)	-	5.7	白・黒・橙色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～体部1/3残存
3	床面直上	土師器　杯	-	丸底	(2.8)	赤色小粒、チャート、雲母	良好	にぶい赤褐色	外面ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	体部のみ3/4残存
4	床面直上	土師器　高杯	(9.4)	-	(6.4)	白・黒色粒、橙色粗粒、雲母	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、有段以下回転ナデ後下半部回転ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	坏部1/3残存

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	直径(cm)	孔径(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	床面直上	石製品　管玉	1.65	0.6	0.25	黒色頁岩	-	-	0.9	全面研磨。	完存

H-11

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　高杯	-	-	(3.1)	白・赤・黒色粒、石英	やや軟質	にぶい橙色	外面ミガキ。 内面磨滅により不明。	坏部一部～脚部上部片

H-12

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	11.4	丸底	3.5	白・黒色粒、石英	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビオサエ。	完形。底部煤付着
2	床面直上	土師器　坏	(11.4)	丸底	3.6	白・黒色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビオサエ。	3/5残存

H-13

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	11.9	丸底	3.8	赤色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビオサエ。	口縁２ヶ所欠損

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	土師器　坏	(12.5)	丸底	3.7	白・黒・橙色粒、雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビオサエ。	3/4残存
3	床面直上	土師器　坏	(10.6)	丸底	3.0	白・赤・黒色粒、白色鉱物	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビオサエ。	口縁1/2欠損
4	床面直上	土師器　壺	－	－	(5.4)	白・黒・赤色粒	良好	明赤褐色	外面有段口縁。ハケ状工具による斜位交互刺とつ（矢羽状２段）。段下ヨコナデ以下ハケナデ。内面ハケケズリ後ミガキ。	頸部片

H－14

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	15.3	－	(3.6)	赤色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	2/3残存
2	床面直上	土師器　甕	(20.0)	－	(7.0)	白色粒、黒雲母	良好	明黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。	口縁部片

H－15

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(11.4)	丸底	(3.55)	赤色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～体部1/3残存
2	覆土	土師器　坏	(11.0)	丸底	3.3	赤色粒、黒雲母、チャート	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～体部1/5残存

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	孔径(cm)	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	石製模造品	(2.4)	(1.9)	0.25	緑泥片岩	0.2	－	1.7	表裏面・上面～左側縁。 上部研磨痕。穿孔時欠損か。	破片

D－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	陶磁器　杯	(11.3)	(6.2)	(2.8)	粘土質	良好	灰白色	内外面ロクロによるヨコナデ。	1/5残存

W－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	焙烙	(39.2)	(37.0)	(5.6)	白・黒・橙色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	口縁～底部片 外面煤付着
2	覆土	焙烙	－	(35.0)	(2.6)	黒・白・茶色粒	良好	黒色 にぶい黄色	外面ユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面ユビナデ。	耳部片。外面煤付着 炭化による剥落

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	陶磁器　椀	(11.8)	7.0	7.4	粘土質	良好	灰白色	外面口縁～体部ロクロによるヨコナデ、底部ヘラケズリ、高台部ヨコナデ。内面口縁～底部ロクロによるヨコナデ。	口縁2/3欠損

X－1

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	備考
1	覆土	不明	－	－	銅	2.6cm	0.5cm	1.1mm	3.4ｇ	織布付着

Ⅵ　まとめ

（1）住居跡について

今回の発掘調査により、竪穴住居跡 16 軒を検出した。いずれも出土遺物から古墳時代の住居跡と比定でき、時期的に大別すると古墳時代前期１軒（Ｈ－１）、中期７軒（Ｈ－８ほか）、後期５軒（Ｈ－ 13 ほか）である。なお、出土遺物が希薄なことや小破片であるため、土器による詳細な時期決定の困難な住居跡が２軒 (Ｈ－ 11、16) あるが、切り合い関係や埋土等を考慮すれば、いずれも古墳時代に属する住居跡と思われる。

周辺遺跡では今までの調査成果により古墳時代前期及び後期に属する住居跡が多く確認されているが、古墳時代中期に属する住居跡はほとんど見られない。今回の調査で古墳時代中期に属する住居跡及びそれに伴う一括土器群を確認できたことは大きな成果と言える。

古墳時代中期の土器編年については坂口氏の優れた論考があり（坂口 1999)、それを援用すると、当遺跡で出土した中期の土器はおおむね、坂口編年３～４期の５世紀後半を中心とする時期に比定できる。空白であった古墳時代中期の遺構を確認したことは、上述したように当遺跡周辺が古墳時代を通して連綿と集落が展開し、生活が営まれていたことを示し、また、Ｈ－８を中心として出土した一括土器群は当該期の土器編年研究に良好な資料を提供するものである。

また、調査区内では住居跡の分布に粗密を見出すことができる。本遺跡は微高地上に営まれた遺跡であるが、調査区周辺は東から西にかけて緩やかに高くなる。標高の低い調査区東半での住居跡検出数は１軒のみであり、他は調査区西半に密集した分布を示す。この粗密については傾斜に起因するものと思われ、より標高の高い調査区西半が遺跡の主体部になるものと考えられる。さらに周辺の地形を考慮した上で本遺跡を含めた周辺遺跡の展開を推察すると、微高地の広がる本遺跡以西に集落跡が広がる可能性が高いように思われる。

（2）周辺遺跡との関連と土地利用の復元

本遺跡の周辺には古墳、奈良・平安の住居跡の他、平安時代の水田跡が多く確認され、立地や周辺地形から当時の土地利用状況の復元が試みられており、その中で微高地を集落として、低地を水田として利用していたことが明らかになってきている。そして高橋・高坂氏は地形的な観察を含め、集落を大きく２つのまとまりとして集落群①と集落群②に分け、水田跡を水田①及び②に大別し、周辺の土地利用の在り方について積極的なアプローチを試みている（高橋・高坂 2006、Fig. ２）。

これらを鑑みると、当遺跡は住居跡を中心とする集落遺跡であり、周辺遺跡で確認された住居跡と同様に微高地上の立地となっている。地形的には集落群②と同一の微高地上に立地すると思われる。しかし同一微高地上と仮定した上で、本遺跡は標高約 98.0m、集落群②が標高約 95.8m(六供下堂木Ⅲ遺跡Ｂ地区) と約２ｍの標高差があること、本遺跡は古墳時代中期から後期を中心とするのに対し、集落群②は奈良・平安時代を中心とする点等において、同一の集落群として捉えるには隔たりが大きいように思われる。そこで今回の調査地周辺を新たに集落群③として設定し、本遺跡周辺には古墳時代中期から後期を中心とする集落群が広がる可能性を提示しておきたい (上述のように本遺跡周辺は東から西に緩やかに高くなるため、集落の中心はさらに本遺跡から西へ広がる可能性が高い)。以上のことから周辺遺跡との関連と合わせて当時の土地利用を復元すると、古墳時代を中心とする集落が集落群③で営まれた後、集落の拠点が南東に移り、奈良・平安時代を中心とする集落群②が形成されたものと考えられる。

（3）まとめ

今回の調査により古墳時代全般の住居跡を検出し、特にこれまで確認されていなかった古墳時代中期の住居を検出したことは大きな成果である。また、既往の調査成果と併せ、周辺遺跡との関連の中で、大きなまとまりとしてではあるが当時の土地利用の一端が明らかになった。しかしながら、あくまでも地形的な観察の中での推察も含んでおり、今後の発掘調査により全容が解明されることが期待される。

【参考文献】

坂口　一　1987「群馬県における古墳時代中期の土器の編年－共伴関係による土器型式組列の検討－」『研究紀要－４－』群馬県埋蔵文化財調査事業団

坂口好孝・佐藤和則　1997『六供下堂木Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

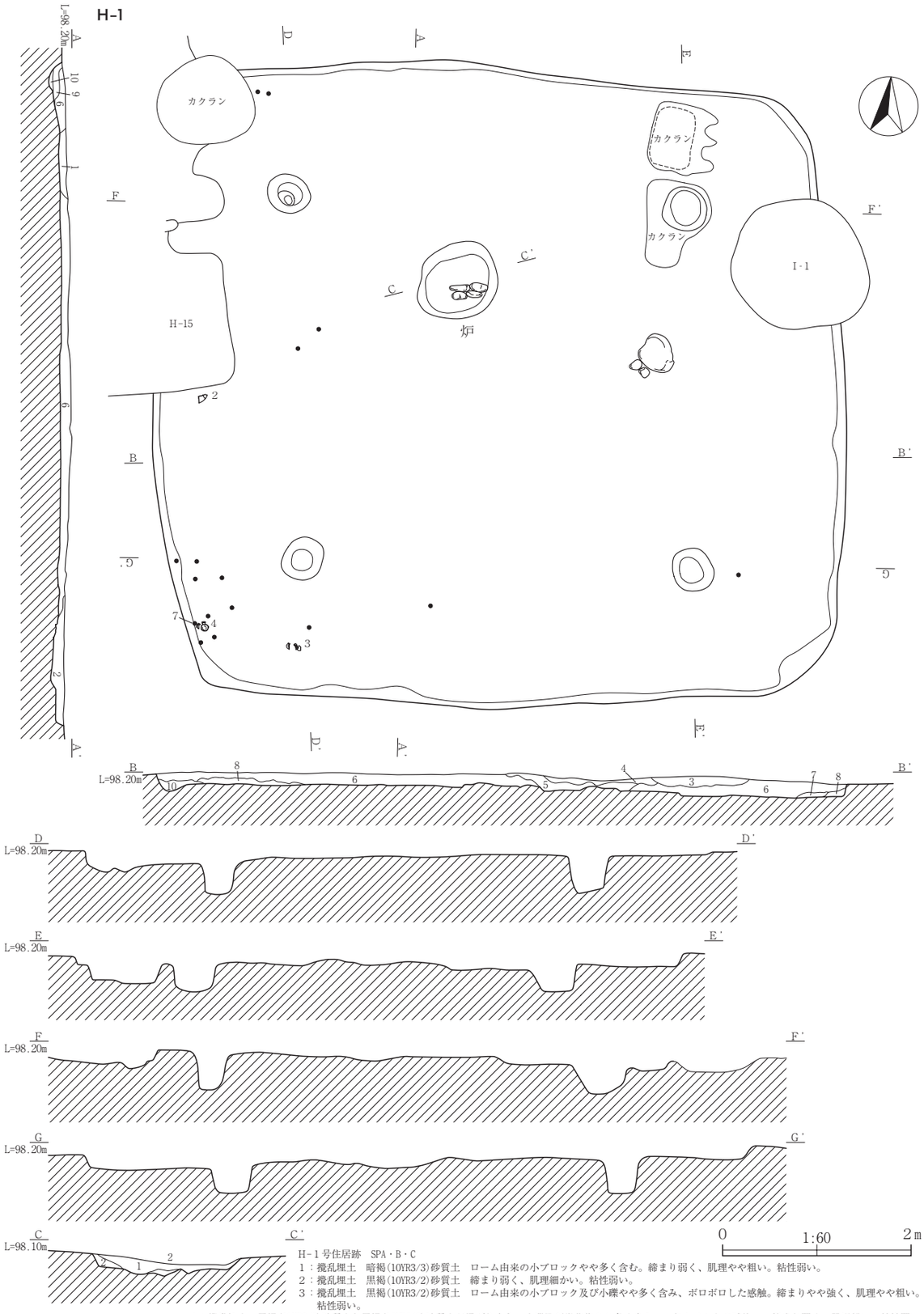
吉田聖二・林　信也　1998『六供中京安寺遺跡・六供下堂木Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

坂口　一　1999「群馬県における古墳時代中期の土器の様相－荒砥北三木堂遺跡の出土土器を中心として－」『東国土器研究　第５号』東国土器研究会

吉田聖二・高山　剛　1999『六供東京安寺遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

高橋　亨・高坂麻子　2006『六供遺跡群』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

小嶋　尚・前田和昭　2006『文京町№１遺跡』前橋市教育委員会

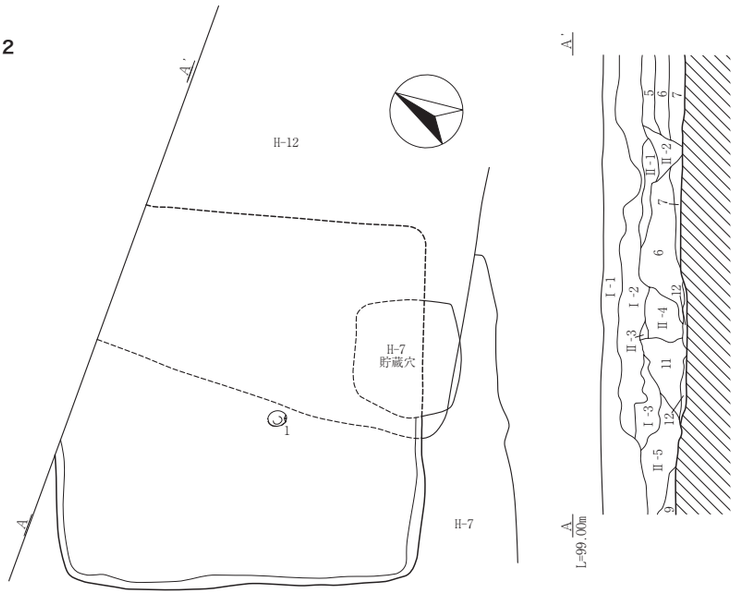


H－１号住居跡　SPA・B・C

１：攪乱埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックやや多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
２：攪乱埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
３：攪乱埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及び小礫やや多く含み、ボロボロした感触。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
４：攪乱埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土と黒褐(10YR2/2)砂質土が混ざり合う　小礫及び炭化物やや多く含み、一部セメントの破片。　締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。
５：攪乱埋土(②層と同一層か)　黒褐(10YR3/2)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
６：埋土　黒(10YR2/1)砂質土と黒褐(10YR3/2)砂質土が混ざり合う　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
７：埋土　黒(10YR2/1)砂質土と黒褐(10YR3/2)砂質土が混ざり合う　ローム由来の小ブロックやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
８：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
９：埋土　黒(10YR2/1)砂質土と黒褐(10YR3/2)砂質土が混ざり合う。As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性やや弱い。
10：埋土(壁溝埋土か)　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。

Fig.５　Ｈ－１号住居跡

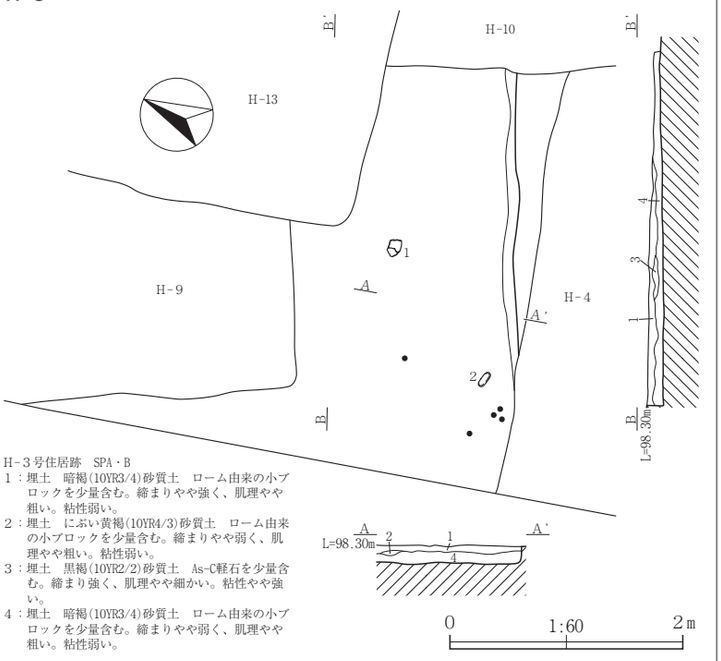
H-2



H-２号住居跡　SPA
Ⅰ-１：表土層　造成土。礫・バラス等を多く含む。
Ⅰ-２：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-３：表土層　黒褐(10YR2/3)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-１：攪乱土層　褐(10YR3/4)砂質土　炭化物(スミ)を少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性やや弱い。
Ⅱ-２：攪乱土層　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-３：攪乱土層　褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-４：攪乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量、炭化物(スミ)を極少量含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-５：攪乱土層(旧表土層か)　暗褐(10YR3/3)砂質土　小礫及びレンガ片等をやや多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
５：H-12住居埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　As-C軽石をやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
６：H-12住居埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
７：H-12住居埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
９：H-7住居埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
11：H-２住居埋土　黒褐(10YR3/4)砂質土を中心とする　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まりやや強く、肌理粗い。粘性弱い。
12：H-２住居埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。

0　1:60　2m

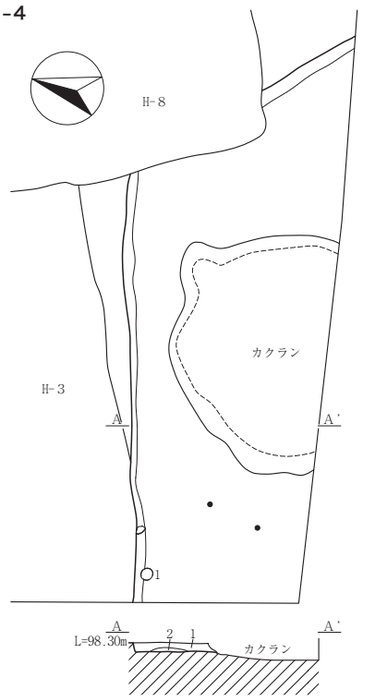
H-3



H-３号住居跡　SPA・B
１：埋土　暗褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
２：埋土　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
３：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　As-C軽石を少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
４：埋土　暗褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。

0　1:60　2m

H-4

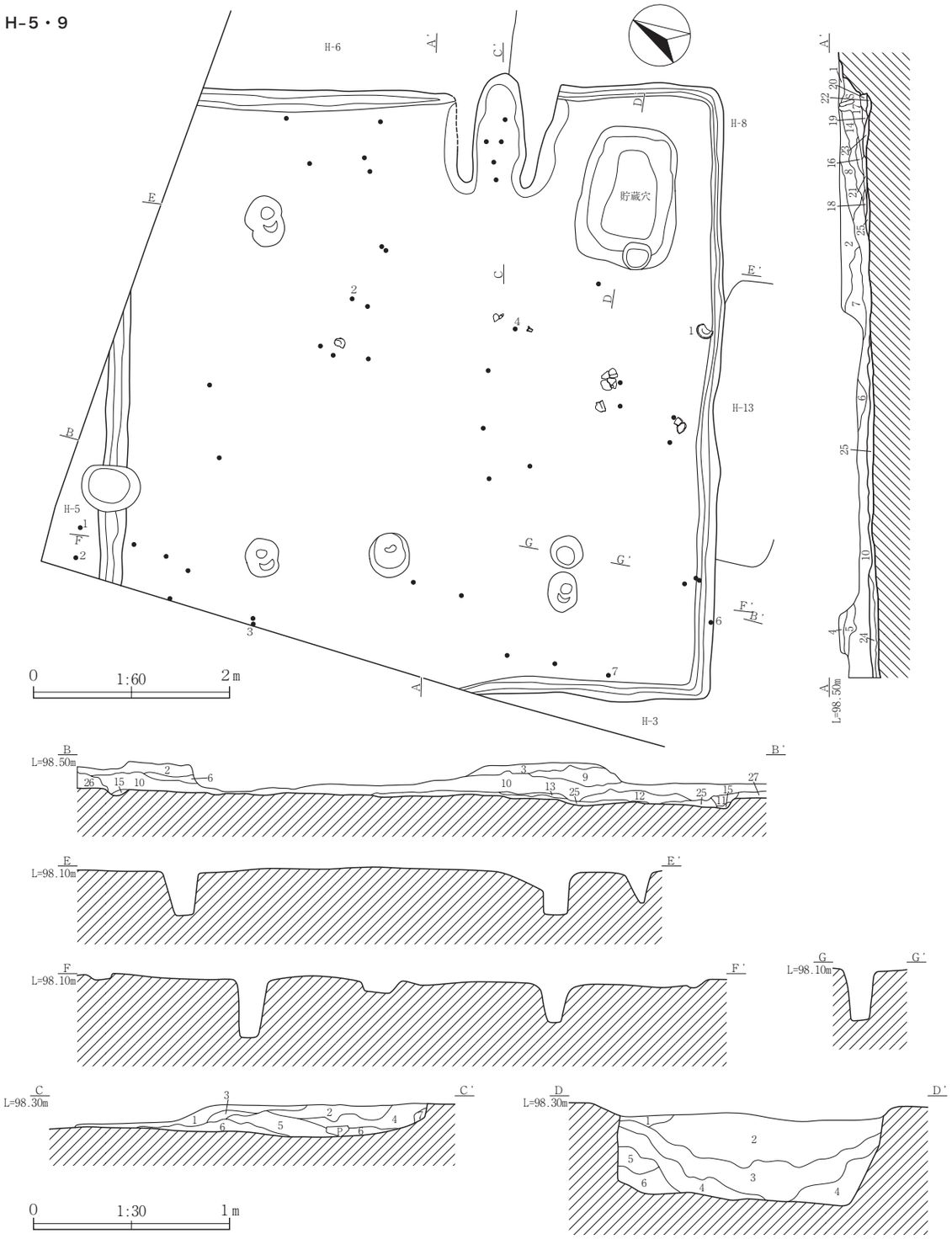


H-４号住居跡　SPA
１：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
２：地山風化土　ローム風化土層。

0　1:60　2m

H-９号住居跡　SPA・B
１：埋土　褐(10YR3/3)砂質土　締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
２：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土を中心に、褐(10YR4/4)砂質土を含む。ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石をやや多く含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
３：埋土　黄褐(10YR5/6)砂質土　締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
４：埋土　褐(7.5YR4/6)砂質土　ロームブロックを含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
５：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土を中心とする　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
６：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　As-C軽石を少量含む　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
７：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石をやや多く含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
８：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
９：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土と、黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
10：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
11：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
12：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロック及び焼土を少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
13：埋土　暗褐(10YR3/4)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。水成堆積のような堆積・土質。
15：埋土(壁溝埋土)　明黄褐(10YR7/6)砂質ブロック(ローム崩れ)を中心に、黒褐(10YR2/2)砂質土を含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。
14：埋土(竈構築土の崩落・堆積土か)　にぶい黄橙(10YR6/4)粘質土と黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
16：竈構築土か　にぶい黄橙(10YR6/3)粘質土　締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
17：竈埋土か　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
18：埋土(竈構築土の崩落・堆積土か)　にぶい黄褐(10YR4/3)粘質土　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
19：竈埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土と、にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
20：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
21：竈埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土と、にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土が混在する。締まりやや弱く、やや粗い。粘性弱い。
22：貼床面　にぶい黄橙(10YR7/3)粘質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり強く肌理細かい。粘性やや強い。
23：貼床面　暗褐(10YR3/3)粘質土を中心とする　締まり強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
24：貼床面か　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く肌理やや細かい。粘性やや強い。
25：貼床面か　黒褐(10YR2/2)粘質土を中心とする　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
26：(H-５住居埋土)　黒褐(10YR3/1)砂質土　As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
27：(H-３住居埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　As-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。

Fig.6　H－２～４号住居跡

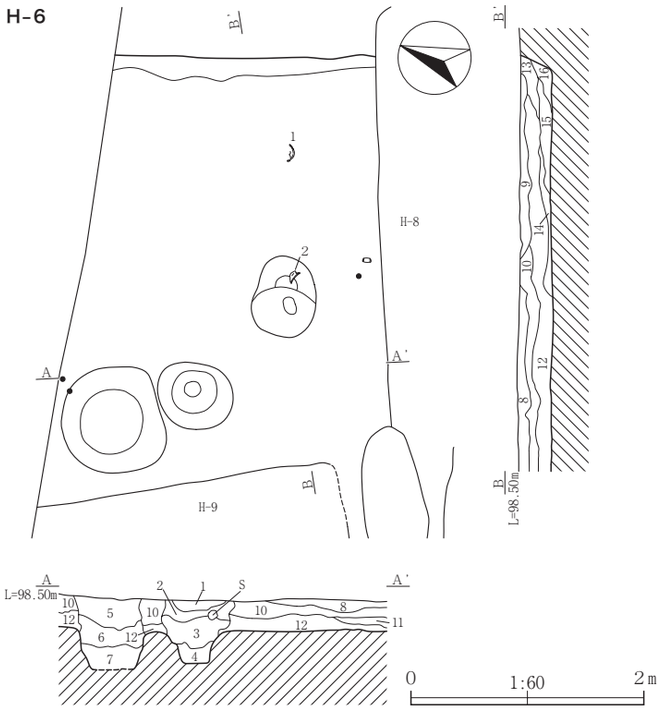


H－9号住居　SPC
1：竈埋土　にぶい黄橙(10YR6/4)粘質土を中心とする　竈構築土の崩落･堆積土か。締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
2：竈埋土　にぶい黄橙(10YR6/3)及び明黄褐(10YR7/6)粘質土が混在する　竈構築土の崩落･堆積土か。締まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
3：竈埋土　灰黄褐(10YR4/2)粘質土を中心とし、明褐(7.5YR5/8)粘質ブロックを含む(後者は竈天井部の崩落土と思われ、ボソボソした感触)　締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
4：竈埋土　にぶい黄褐(10YR5/3)粘質土　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性強い。
5：竈埋土　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土を中心とし、褐(10YR4/6)粘質土を含む　ローム由来の小ブロック及び焼土を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
6：竈埋土　黒(10YR1.7/1)砂質土を中心とし、炭化物(スミ)及び焼土を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
7：竈埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　堆積位置及び土質からH-10の住居埋土の可能性も。As-C軽石を極少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。

H－9号住居跡　SPD
1：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土を中心とし、褐(10YR4/4)砂質土をブロック状に含む　焼土を少量含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
2：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量、焼土を極少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
3：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　2層と似るが、肌理が粗く、ローム小ブロックの含有も少ない。ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
4：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
5：埋土(柱穴痕埋土か)　褐灰(10YR4/1)砂質土を中心に、ローム由来の小ブロックを多量に含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。
6：埋土(柱穴痕埋土か)　ローム由来の小ブロックを中心とし、黒褐(10YR2/3)砂質土を間に含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。

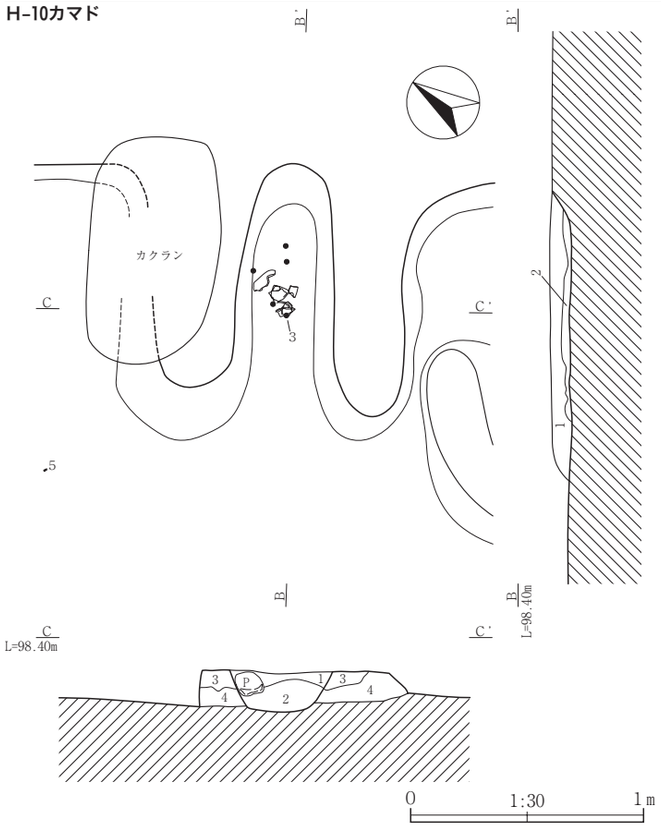
Fig.7　H－5・9号住居跡

H-6



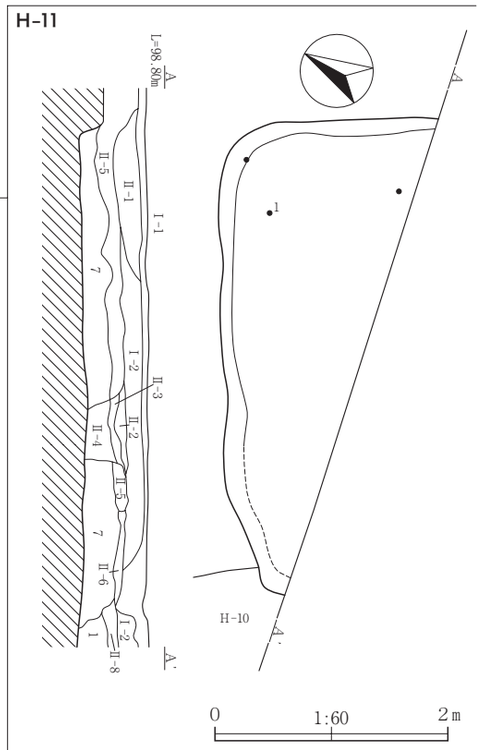
H-6号住居跡　SPA・B
1：攪乱埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する締まり弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
2：攪乱埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
3：攪乱埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土を中心に、褐(10YR4/3)砂質小ブロックを含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
4：攪乱埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
5：(井戸埋土か)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
6：(井戸埋土か)　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
7：(井戸埋土か)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性やや弱い。
8：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と、褐(10YR4/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
9：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土と、褐(10YR4/6)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
10：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
11：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と、にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土が混在する　As-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
12：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
13：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロック及び、As-C軽石を極少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
14：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　As-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
15：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
16：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。

H-10カマド



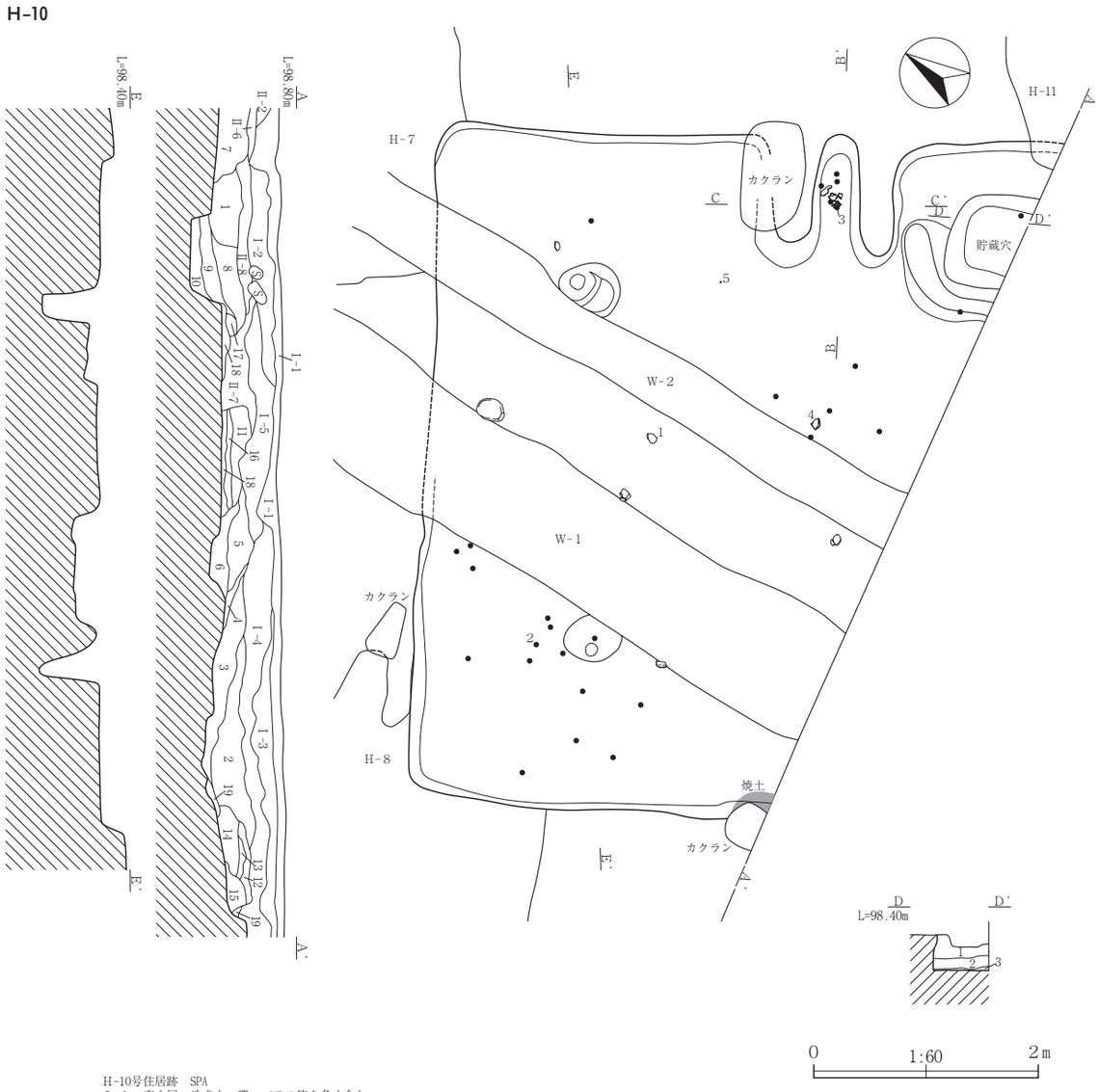
H-10号住居跡　SPB・C
1：竈埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロック、壁体由来の赤褐色粘質ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
2：竈埋土　黒褐(10YR2/2)粘質土　床面近く、炭化物(スミ)を多く含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性強い。
3：竈構築土　にぶい黄橙(10YR6/4)粘質土　締まり強く、肌理細かい。粘性やや弱い。被熱のためか、全体的にボソボソした感触。
4：住居貼床面　黒褐(10YR2/2)粘質土を中心とする　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まりやや強く、きめやや細かい。粘性やや強い。

H-11



H-11住居跡　SPA
Ⅰ-1：表土層　造成土　礫・バラス等を多く含む。
Ⅰ-2：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-1：攪乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　人頭大の礫を含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。
Ⅱ-2：攪乱土層(近現代の暗渠)　褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-3：攪乱土層(近現代の暗渠)　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-4：攪乱土層(近現代の暗渠)　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-5：攪乱土層(旧表土層か)　暗褐(10YR2/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-6：攪乱土層　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　ローム由来のブロックを中心とする。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-8：攪乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
1：(X-1埋土)　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
7：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する
ローム由来の小ブロックやや多く、As-C軽石を極少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。

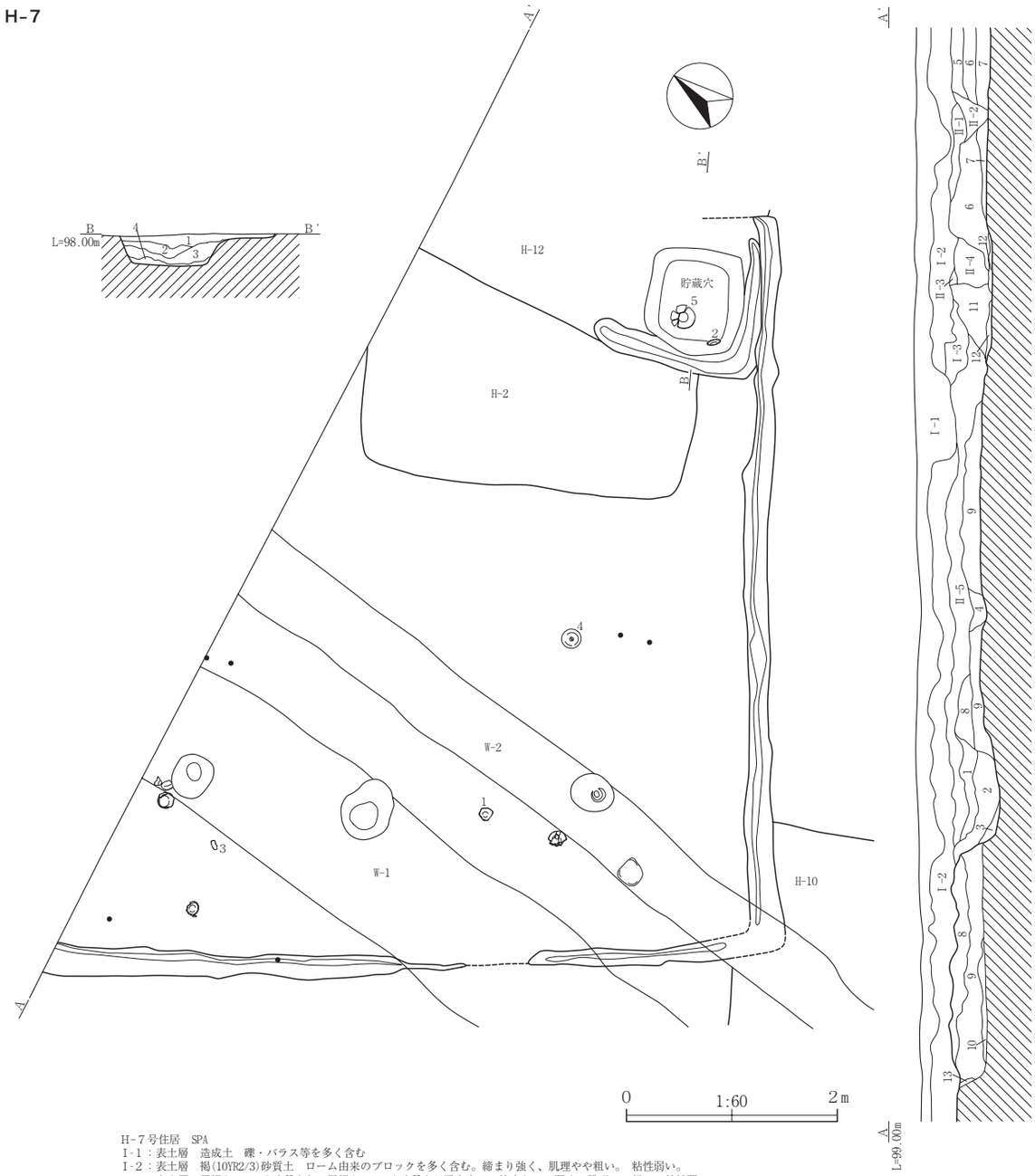
Fig.8　H－6・11号住居跡



H-10号住居跡　SPA
Ⅰ-1：表土層　造成土　礫・バラス等を多く含む。
Ⅰ-2：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-3：表土層　黒褐(10YR2/3)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-4：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-5：表土層　褐(10YR3/4)砂質土　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-2：攪乱土層(近現代の暗渠)　褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-6：攪乱土層　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　ローム由来のブロックを中心とする。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-7：攪乱土層(近現代の暗渠)　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-8：攪乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
1：(X-1埋土)　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2：(W-1埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
3：(W-1埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
4：(W-1埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
5：(W-2埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
6：(W-2埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
7：(H-11住居埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックやや多く、As-C軽石を極少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
8：貯蔵穴埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック(及びAs-C軽石か)を少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9：貯蔵穴埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　1層と似るが、やや肌理粗く、ボソボソした感触。締まり強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
10：貯蔵穴埋土　黒(10YR2/1)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
11：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
12：埋土(11層と同一層の可能性も)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
13：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
14：埋土　黒褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
15：埋土　灰黄褐(10YR4/2)砂質土　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。若干の焼土を含み、竈であった可能性も。
16：貯蔵穴周提帯か　ローム由来の小ブロックを中心とする。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性強い。
17：住居貼床　ローム由来の小ブロックを中心とし、黒褐(10YR3/2)粘質土を含む　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性強い。
18：埋土(貼床の一部か)　黒褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
19：地山　ローム層。

H-10号住居跡　SPD
1：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック(及びAs-C軽石か)を少量含。　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　1層と似るが、やや肌理粗く、ボソボソした感触　締まり強く、肌理やや細か。　粘性弱い。
3：埋土　黒(10YR2/1)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。

Fig. 9　H－10号住居跡

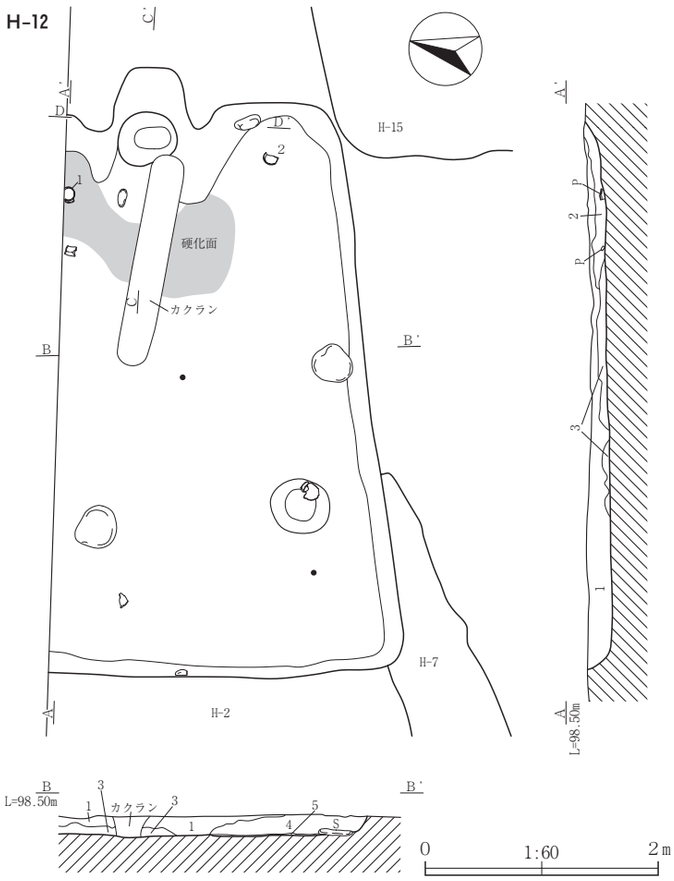


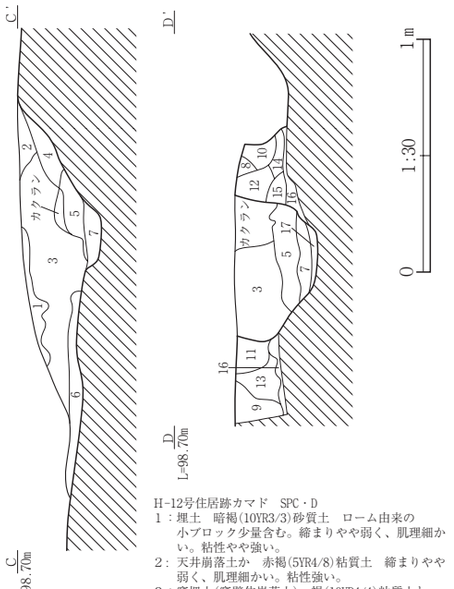
H-７号住居　SPA
Ⅰ-1：表土層　造成土　礫・バラス等を多く含む
Ⅰ-2：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。　粘性弱い。
Ⅰ-3：表土層　黒褐(10YR2/3)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-1：撹乱土層　褐(10YR3/4)砂質土　炭化物(スミ)を少量含む　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性やや弱い。
Ⅱ-2：撹乱土層　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-3：撹乱土層　褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-4：撹乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量、炭化物(スミ)を極少量含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-5：撹乱土層(旧表土層か)　暗褐(10YR3/3)砂質土　小礫及びレンガ片等をやや多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
１：(W-1埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
２：(W-1埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
３：(W-1埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
４：(W-2埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
５：(H-12住居埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　As-C軽石をやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
６：(H-12住居埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
７：(H-12住居埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土と、暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
８：(H-7住居埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及び、As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
９：(H-7住居埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
10：(H-7住居埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土と、灰黄褐(10YR4/2)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
11：埋土　黒褐(10YR3/4)砂質土を中心とする　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まりやや強く、肌理粗い。粘性弱い。
12：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
13：地山　ローム。

H-７号住居　SPB
１：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロック及び、As-C軽石を少量含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
２：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
３：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土と、黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
４：埋土(地山風化土か)　ローム由来の小ブロックを中心とし、黒褐(10YR2/3)砂質土を間に含む。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。

Fig.10　H－７号住居跡

H-12

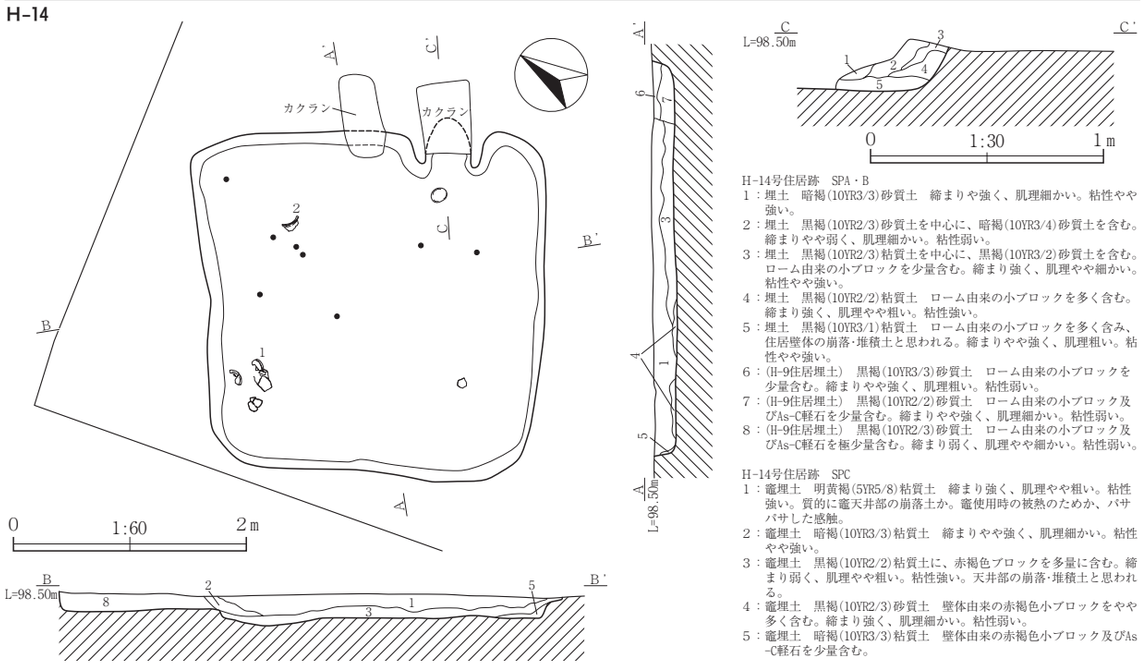




H-12号住居跡カマド　SPC・D
1：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロック少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
2：天井崩落土か　赤褐(5YR4/8)粘質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性強い。
3：竈埋土(竈壁体崩落土)　褐(10YR4/4)粘質土と、暗褐(10YR3/3)粘質土を中心とする　炭化物(スミ)を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
4：竈埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　壁体由来の赤褐色小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
5：竈埋土　褐(10YR4/4)粘質土　壁体由来の赤褐色粘質小ブロックを含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
6：竈埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　竈床面近くで、炭化物(スミ)を多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
7：竈埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　壁体由来の赤褐色粘質小ブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
8：攪乱埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
10：埋土　9層とほぼ同質だが、やや炭化物(スミ)を多く含む。
11：竈構築土　褐(7.5YR4/4)粘質土　明赤褐色小粒小量含む。締まりやや強く肌理細かい。粘性強い。被熱のためか、全体的に赤みが強い。
12：竈構築土　暗褐(10YR3/4)粘質土と黄褐(10YR5/6)粘質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。被熱のためか、全体的にボソボソした感触。
13：竈構築土　にぶい黄褐(10YR5/4)粘質土　明赤褐色小粒小量含む。締まり強く肌理細かい。粘性強い。
14：竈構築土　暗褐(10YR3/4)粘質土と黄褐(10YR5/6)粘質土が混在する　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
15：竈埋土か　黒褐(10YR3/2)砂質土　炭化物(スミ)を極小量含む。締まり弱く肌理やや細かい。粘性弱い。
16：竈床面か　黒褐(10YR2/2)砂質土と暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　締まり強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
17：竈掘り方(地山)　ローム層。

H-12号住居跡　SPA・B
1：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2：埋土(竈セクション1層と同一層)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロック少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
3：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
4：埋土　黒褐(10YR3/4)粘質土　ローム由来の小土塊及びAs-C軽石を少量含む。締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
5：貼床面　黒褐(10YR2/2)粘質土　ローム由来の小ブロック及び赤褐色砂質土を含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性強い。

H-14

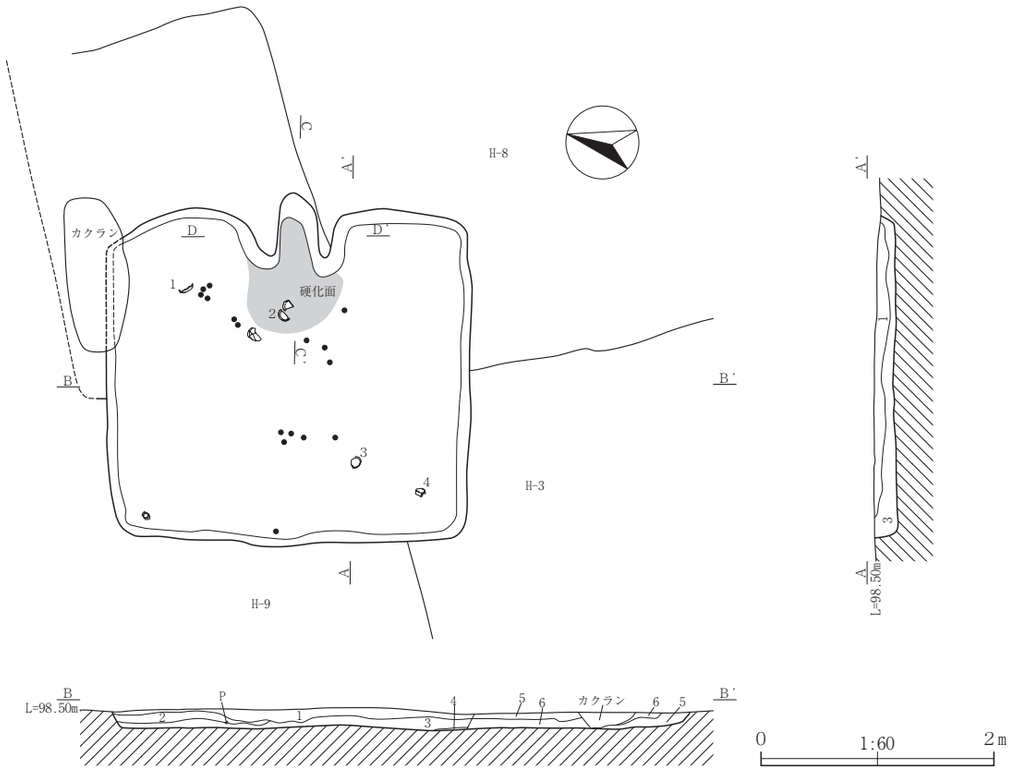


H-14号住居跡　SPA・B
1：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　締まりや強く、肌理細かい。粘性やや強い。
2：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土を中心に、暗褐(10YR3/4)砂質土を含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
3：埋土　黒褐(10YR2/3)粘質土を中心に、黒褐(10YR3/2)砂質土を含む。ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
4：埋土　黒褐(10YR2/2)粘質土　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性強い。
5：埋土　黒褐(10YR3/1)粘質土　ローム由来の小ブロックを多く含み、住居壁体の崩落・堆積土と思われる。締まりやや強く、肌理粗い。粘性やや強い。
6：(H-9住居埋土)　黒褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理粗い。粘性弱い。
7：(H-9住居埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
8：(H-9住居埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を極少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。

H-14号住居跡　SPC
1：竈埋土　明黄褐(5YR5/8)粘質土　締まり強く、肌理やや粗い。粘性強い。質的に竈天井部の崩落土か。竈使用時の被熱のためか、パサパサした感触。
2：竈埋土　暗褐(10YR3/3)粘質土　締まりやや強く、肌理細かい。粘性やや強い。
3：竈埋土　黒褐(10YR2/2)粘質土に、赤褐色ブロックを多量に含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性強い。天井部の崩落・堆積土と思われる。
4：竈埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　壁体由来の赤褐色小ブロックをやや多く含む。締まり強く、肌理細かい。粘性弱い。
5：竈埋土　暗褐(10YR3/3)粘質土　壁体由来の赤褐色小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。

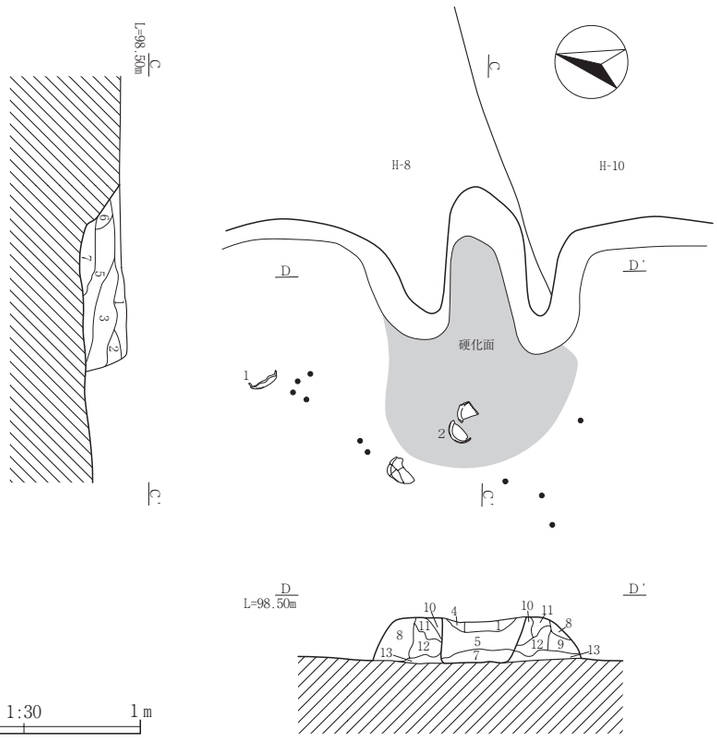
Fig.11 H－12・14号住居跡

H-13



H-13号住居跡　SPA・B
1：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　As-C軽石を極少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
2：埋土　暗褐(7.5YR3/3)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混ざり合う　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
3：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
4：埋土　黒褐(10YR3/4)砂質土に、As-C軽石混じりの黒褐(10YR3/1)砂質土を含む　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
5：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　As-C軽石を極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性やや強い。
6：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と暗褐(7.5YR3/4)砂質土が混ざり合う　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。

H-13カマド



H-13号住居跡カマド　SPC・D
1：住居埋土(住居埋土１層と同一層)　黒褐(10YR2/3)砂質土　As-C軽石を極少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
2：竈埋土　暗褐(10YR3/4)砂質土　締まり強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
3：竈埋土　灰黄褐(10YR4/2)砂質土　壁体崩落土と考えられる赤褐色粘質小ブロック(被熱のためパサパサ)を多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
4：竈埋土　暗褐(7.5YR3/4)砂質土　壁体の崩落･堆積土か。締まり強く肌理細かい。粘性強い。
5：竈埋土　暗褐(10YR3/4)砂質土　壁体由来の赤褐色小ブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
6：竈埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　壁体由来の赤褐色小ブロックを少量含む。締まり強く、肌理細かい。粘性やや強い。
7：竈埋土　暗褐(7.5YR3/3)砂質土　As-C軽石及びローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
8：住居埋土(住居埋土１層と同一層)　黒褐(10YR2/3)砂質土　As-C軽石を極少量含む。締まり強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
9：竈埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土に褐(7.5YR4/4)粘質土をやや多く含む　壁体の崩落･堆積土か。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
10：竈構築土　暗褐(10YR3/3)粘質土に、褐(7.5YR4/4)粘質土を含む。被熱によるためか、やや赤み強い。締まり強く、肌理やや細かい。粘性強い。
11：竈構築土　黄褐(10YR5/6)粘質土に、褐(7.5YR4/6)粘質土が混在する　締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
12：竈構築土　にぶい黄橙(10YR6/3)粘質土に、褐(7.5YR4/6)粘質土を含む　締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
13：埋土(床面か)　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロックやや少量含む。

Fig.12 H－13号住居跡

H－8号住居跡　SPD

1：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土と、褐(7.5YR4/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックやや多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。

2：埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土を中心とする　ローム由来の小ブロック及び焼土と炭化物(スミ)を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。

3：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。

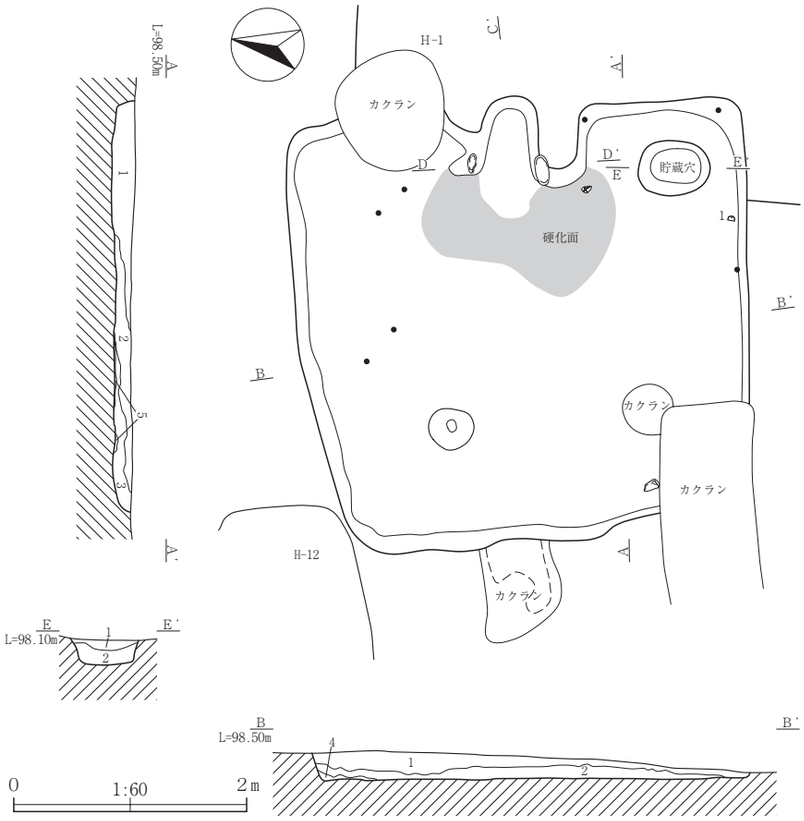
4：地山風化土　ロームの風化土層。

Fig.13　H－8号住居跡出土遺物

H－８号住居跡　SPA・B
１：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土及び黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　As-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
２：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土及び黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　As-C軽石及びローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
３：埋土(1層と同一層か)　黒褐(10YR3/2)砂質土及び黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　As-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
４：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土及び黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
５：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土と暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及び赤褐色(5YR4/6 焼土?)小ブロックを含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
６：埋土(5層と同一層か)　黒褐(10YR2/3)砂質土と暗褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及び赤褐色(5YR4/6 焼土?)小ブロックを含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
７：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
８：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
９：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土及び黒褐(10YR2/3)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性やや弱い。
10：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土を中心に、褐(10YR4/4)砂質土を含む　ローム由来の小ブロック及び焼土を少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
11：埋土　褐(10YR2/2)砂質土を中心に、黒褐(10YR2/2)砂質土を含む　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。土質から、住居壁のロームが風化・堆積した層と思われる。
12：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土と、褐(10YR3/4)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及び焼土を少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
13：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土と黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック(及びAs-C軽石か?)をやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
14：埋土(壁溝埋土)　褐(10YR4/4)砂質土を中心とする　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
15：床面(地山硬化面)　地山・ローム層。
16：(H-3住居埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
17：(H-6住居埋土)　黒褐(10YR2/)砂質土　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
18：(H-6住居埋土)　黒(10YR2/1)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロック及びAs-C軽石を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
19：(H-6住居埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土及び黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。

H－８号住居跡　SPC
１：埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　焼土ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性やや強い。
２：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　焼土小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
３：竈埋土　にぶい黄褐(10YR5/4)粘質土　竈構築土の一部か。締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
４：竈埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
５：竈埋土　暗褐(7.5Y R3/4)砂質土　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
６：竈埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　焼土を少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい。粘性やや弱い。
７：竈埋土　褐(7.5YR4/4)粘質土　竈構築土の一部か。締まり強く、肌理細かい。粘性強い。
８：竈埋土　黒(10YR2/1)砂質土　炭化物(スミ)を少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや強い。
９：竈埋土　褐(10YR3/4)砂質土　焼土を多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。
10：竈埋土　褐(10YR3/4)砂質土　焼土ブロックをやや多く含。　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
11：竈埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　焼土ブロックをやや多く含む。
12：竈埋土　赤褐(5YR4/8)焼土ブロックを中心とする　竈壁体の崩落・堆積土。締まり弱く、肌理粗い。粘性弱い。
13：竈床面か　褐灰(10YR4/1)砂質土　炭化物(スミ)を多く含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。

H-15



H-15号住居跡　SPA・B
１：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロック少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性は弱い。
２：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　締まり強く、肌理細かい。粘性は弱い。(1層に比してもやや弱い)
３：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性はやや弱い。
４：埋土　黒褐(10YR3/3)砂質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性は弱い。住居壁の崩落堆積土か。
５：床面　ローム硬化面。

H-15号住居跡　SPC・D
１：埋土（住居埋土①層と同一層）　黒褐(10YR2/3)砂質土ローム由来の小ブロック少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性は弱い。
２：天井壁か　褐(7.5YR4/4)粘質土　締まり弱く、肌理細かい。粘性強い。
３：埋土　暗褐(7.5YR3/4)粘質土を中心とする　締まり強く、肌理細かい。粘性は強い。竈壁体の崩落土の一部か。
４：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　床面近く、炭化物(スミ)を多く含む。壁体由来の赤褐色粘質土も含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性はやや弱い。
５：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　炭化物(スミ 黒10YR 2/1)を多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
６：竈構築土　暗褐(10YR3/3)粘質土と、褐(7.5YR4/3)粘質土が混在する　As-C軽石やや多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性強い。
７：竈構築土　暗褐(10YR3/4)砂質土と、褐(7.5YR4/3)粘質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
８：竈構築土　暗褐(10YR3/3)粘質土を中心に、赤褐(5YR4/6)粘質ブロックをやや多く含む　ローム由来の小ブロック少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
９：竈床面か　褐(7.5YR4/6)粘質土を中心とする　締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性やや弱い。
10：竈掘り方(H-1埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土に、黒(10YR2/1)砂質土を含む　ローム由来の小ブロックやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
11：竈掘り方(H-1埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土を中心とする　締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
12：竈掘り方(地山)　ローム層。

H-15号住居跡　SPE
１：埋土　黒褐(10YR2/2)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性は弱い。
２：埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土を中心に、黄褐(10YR5/6)砂質土をまばらに含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性は弱い。

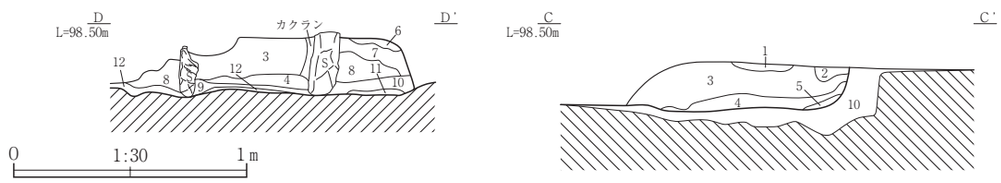
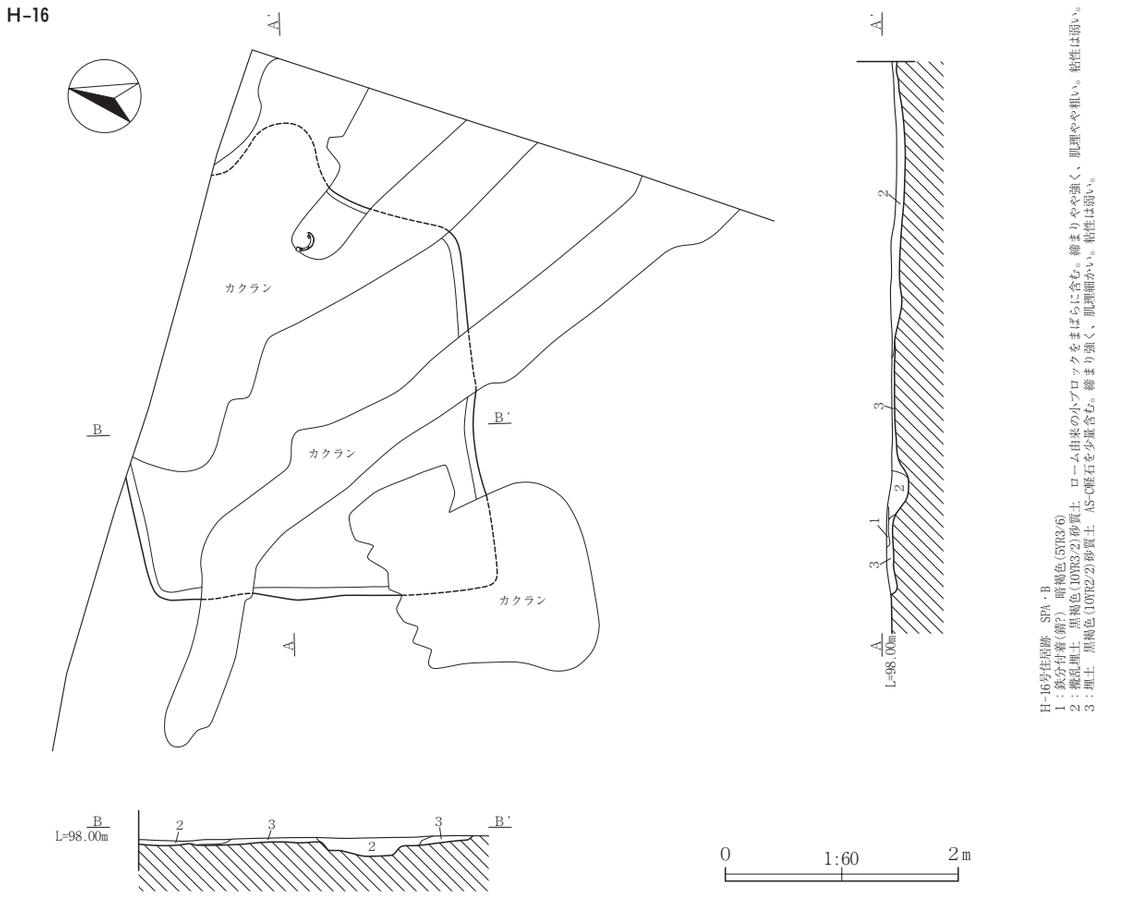


Fig.14 H－８・15号住居



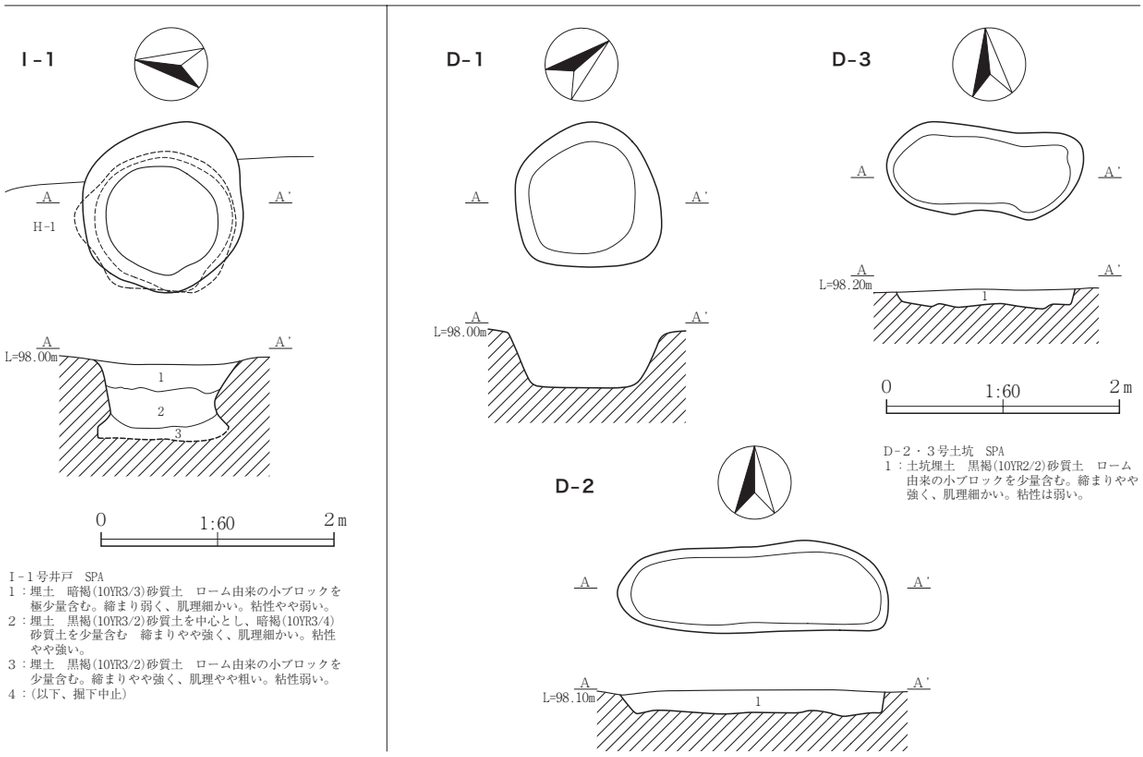
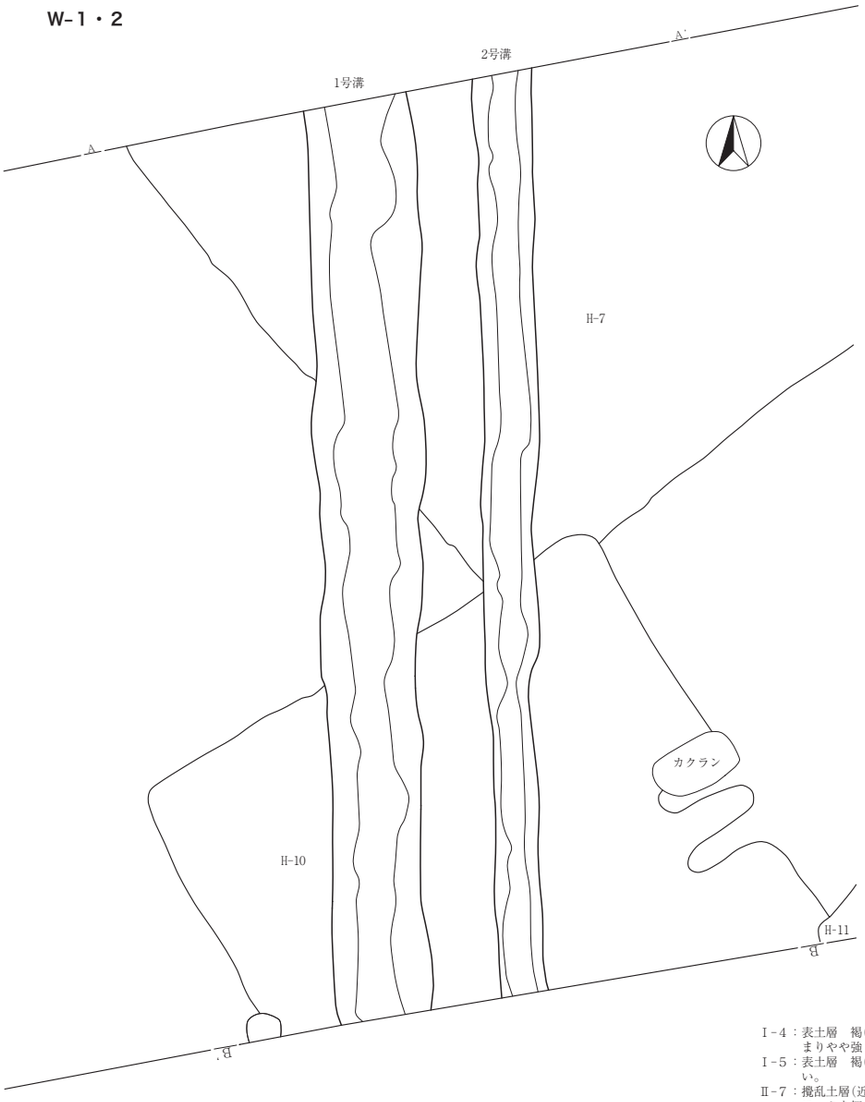
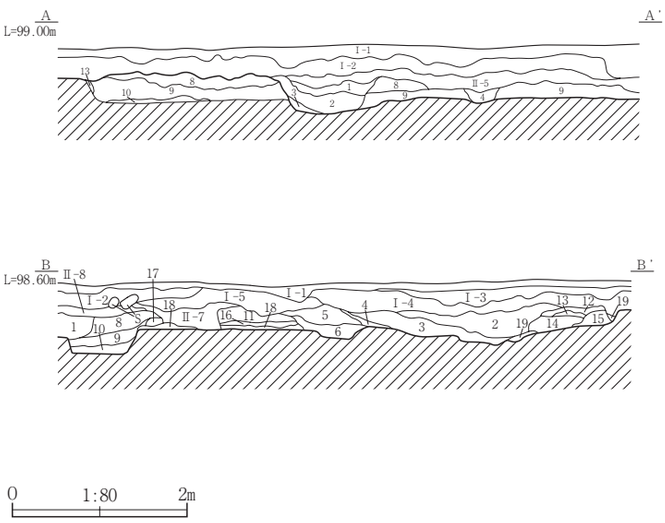


Fig.15　H－16号住居、Ｉ－１号井戸、Ｄ－１～３号土坑

W-1・2



W-1・2号溝　SPA
Ⅰ-1：表土層　造成土　礫・バラス等を多く含む。
Ⅰ-2：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅱ-5：攪乱土層(旧表土層か)　暗褐(10YR3/3)砂質土　小礫及びレンガ片等をやや多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
1：W-1埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
2：W-1埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
3：W-1埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
4：W-2埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
8：(H-7住居埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック及び、As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
9：(H-7住居埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理やや細かい粘性弱い。
10：(H-7住居埋土)　黒褐(10YR2/3)砂質土と、灰黄褐(10YR4/2)砂質土が混在する　ローム由来の小ブロックを多く含む。締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
13：地山　ローム。



W-1・2号溝　SPB
Ⅰ-1：表土層　造成土　礫・バラス等を多く含む。
Ⅰ-2：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを多く含む。締まり強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-3：表土層　黒褐(10YR2/3)砂質土と、黒褐(10YR3/2)砂質土が混在する　締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-4：表土層　褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来のブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
Ⅰ-5：表土層　褐(10YR3/4)砂質土　締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
Ⅱ-7：攪乱土層(近現代の暗渠)　暗褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性弱い。
Ⅱ-8：攪乱土層　暗褐(10YR2/3)砂質土　締まり弱く、肌理やや粗い。粘性弱い。
1：(X-1埋土)　にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土　締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2：W-1埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
3：W-1埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
4：W-1埋土　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まり弱く、肌理やや細かい。粘性弱い。
5：W-2埋土　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まり弱く、肌理細かい。粘性やや弱い。
6：W-2埋土　黒褐(10YR2/3)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
8：(H-10貯蔵穴埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　ローム由来の小ブロック(及びAs-C軽石か)を少量含む。締まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9：(H-10貯蔵穴埋土)　黒褐(10YR2/2)砂質土　1層と似るが、やや肌理粗く、ボソボソした感触。締まり強く、肌理やや細かい。粘性弱い。
10：(H-10貯蔵穴埋土)　黒(10YR2/1)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。
11：(H-10住居埋土)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
12：(H-10住居埋土)(11層と同一層の可能性も)　黒褐(10YR3/2)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
13：(H-10住居埋土)　暗褐(10YR3/3)砂質土　ローム由来の小ブロックをやや多く含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
14：(H-10住居埋土)　黒褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを少量含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性弱い。
15：(H-10住居埋土)　灰黄褐(10YR4/2)砂質土　締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性やや弱い。若干の焼土を含み、竈であった可能性も。
16：(H-10貯蔵穴周提帯か)　ローム由来の小ブロックを中心とする。締まりやや強く肌理やや粗い。粘性強い。
17：(H-10住居貼床)　ローム由来の小ブロックを中心とし、黒褐(10YR3/2)粘質土を含む。締まりやや強く、肌理やや粗い。粘性強い。
18：(H-10住居埋土)(貼床の一部か)　黒褐(10YR3/4)砂質土　ローム由来の小ブロックを極少量含む。締まりやや強く、肌理細かい。粘性弱い。
19：地山　ローム層。

Fig.16　W－1・2号溝

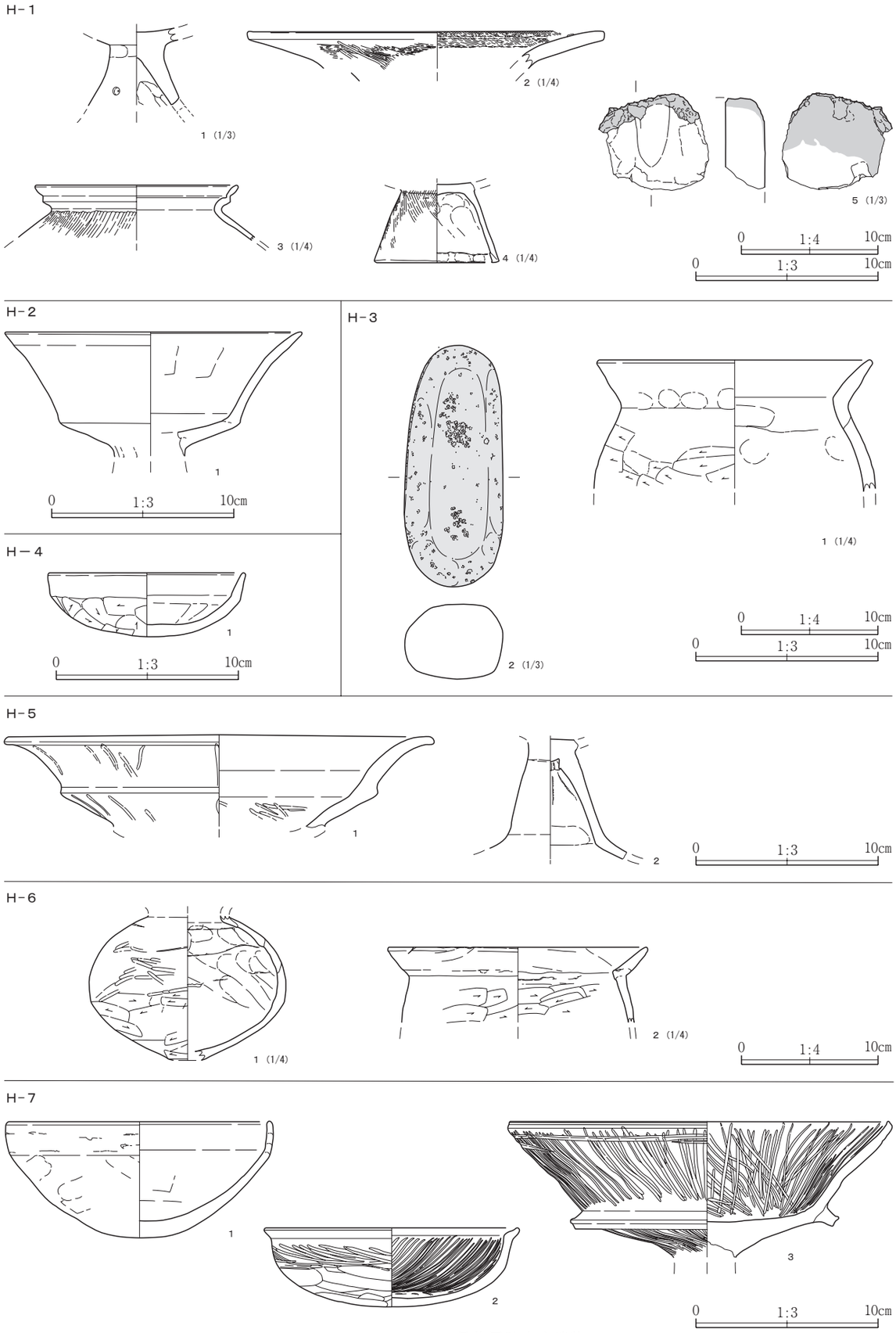


Fig.17　H－1～7号住居跡出土遺物

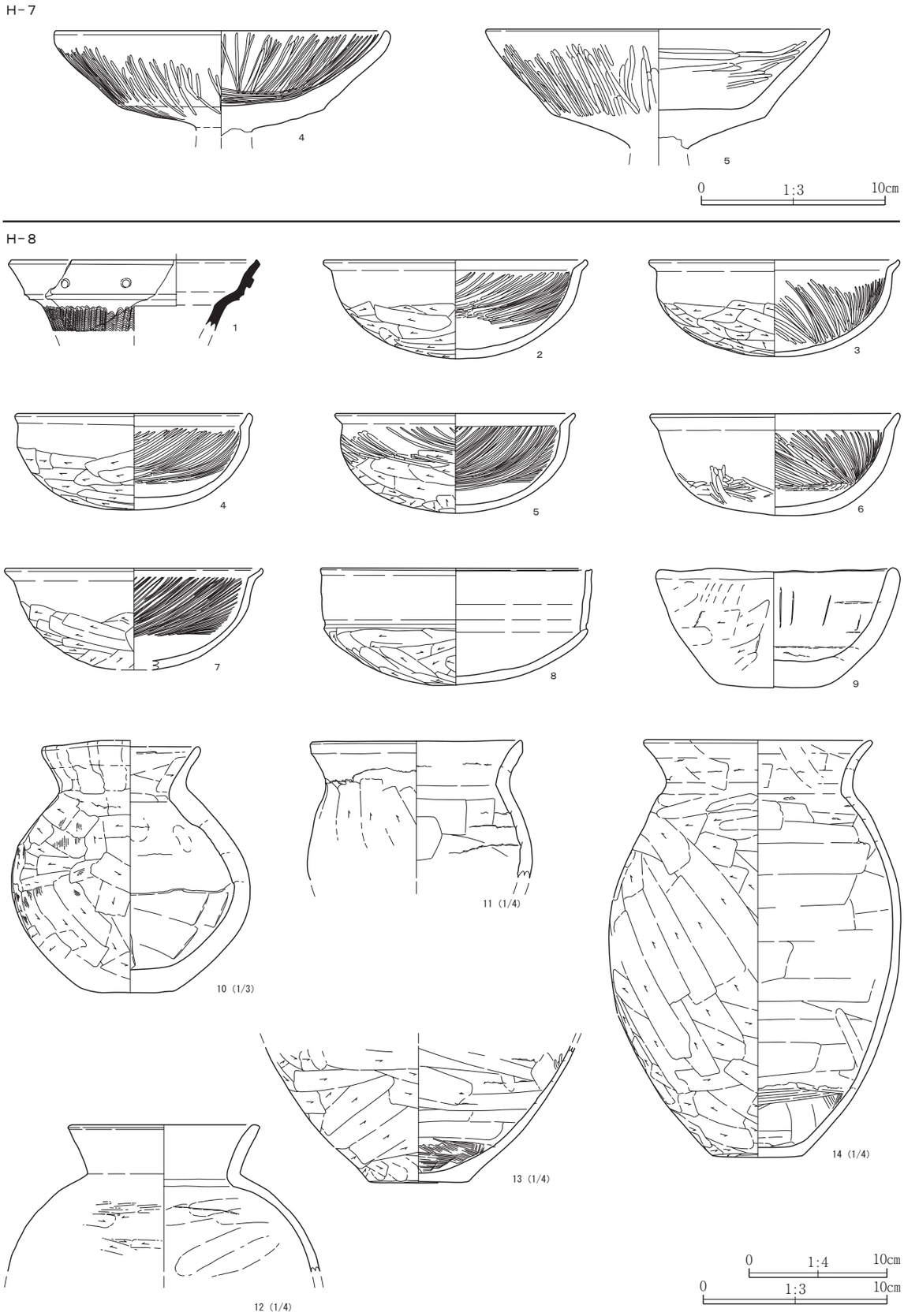


Fig.18　Ｈ－７・８号住居跡出土遺物

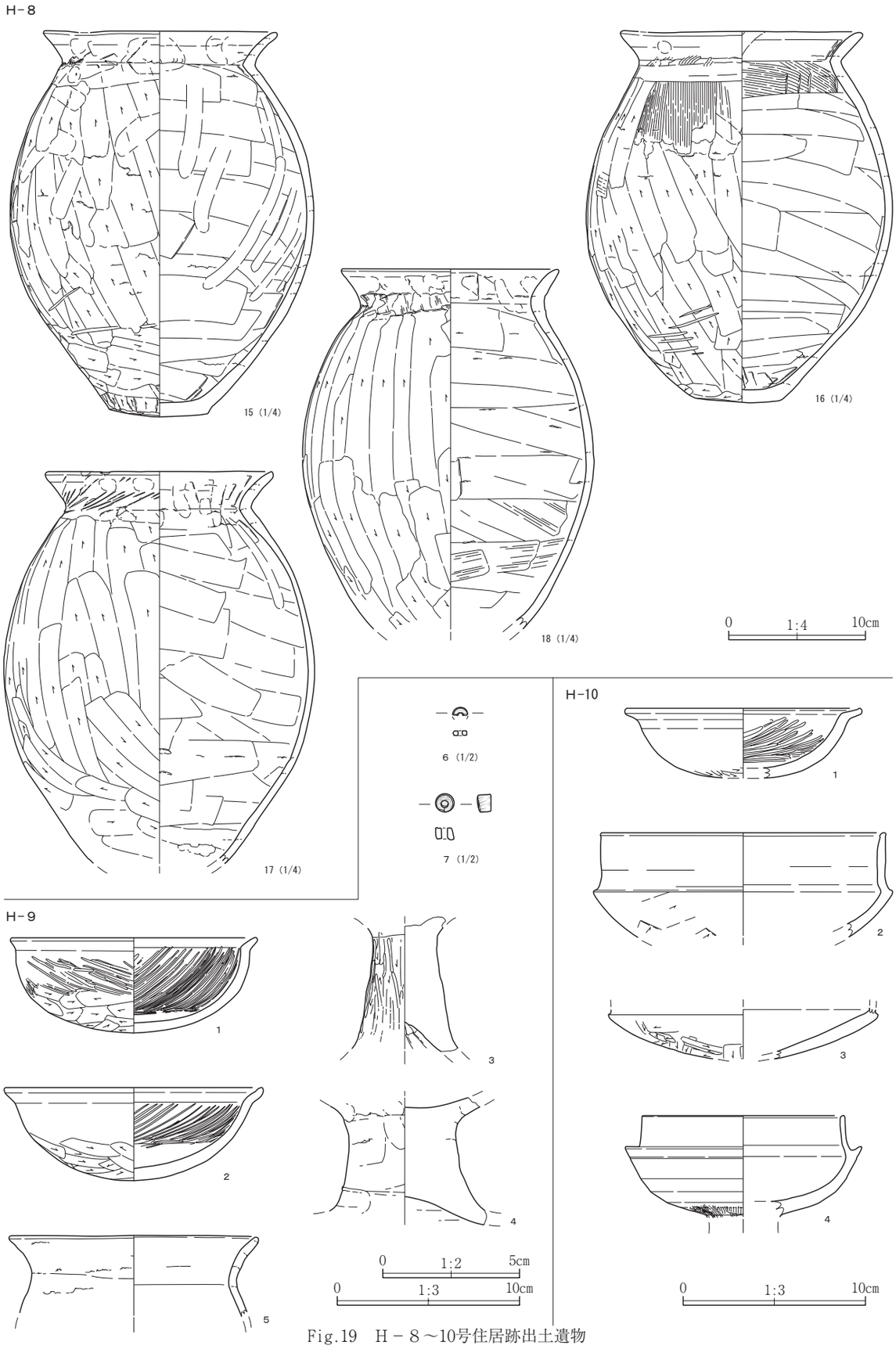


Fig.19　H－８～10号住居跡出土遺物

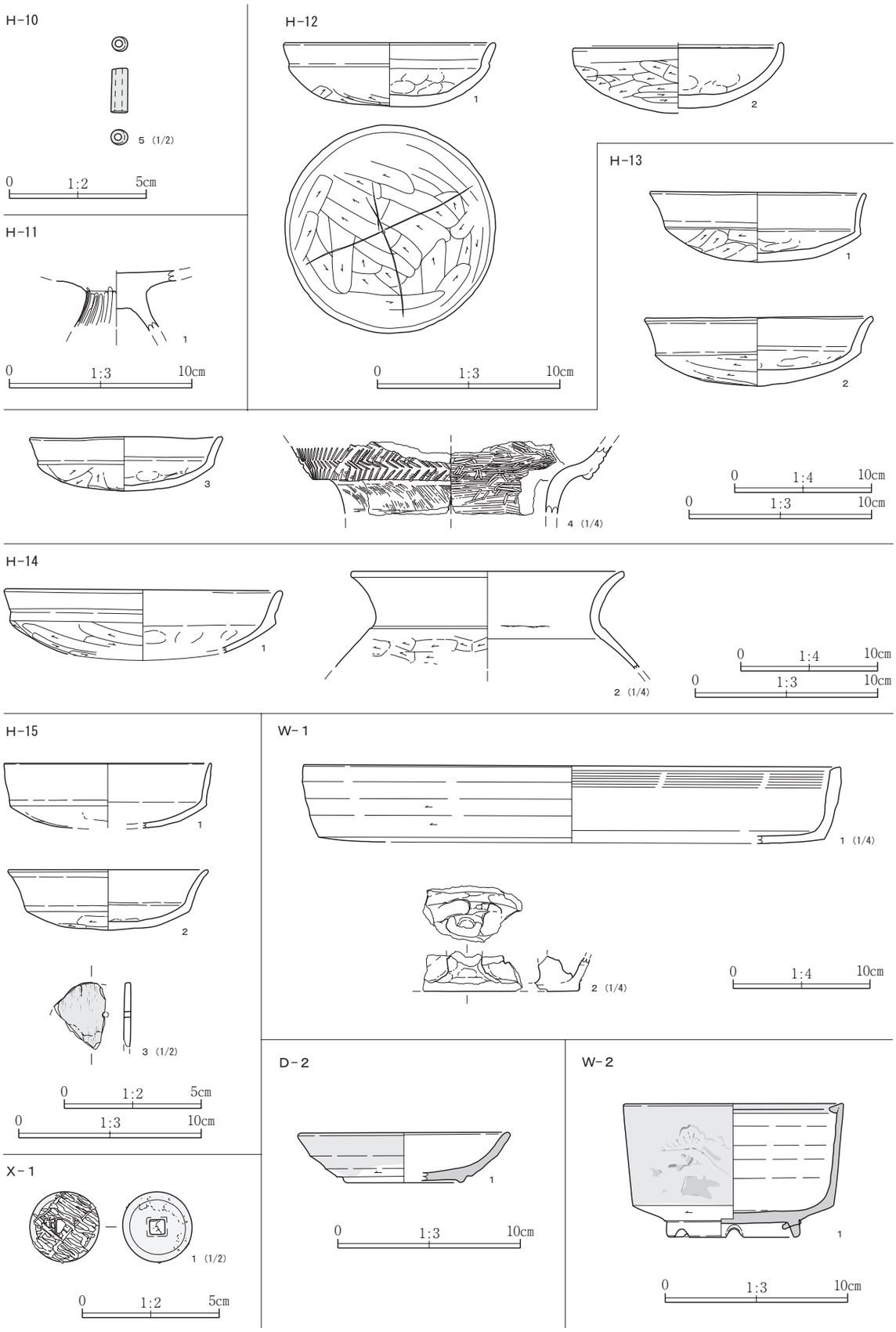


Fig.20　H－10～15号住居、D－２号土坑、W－１・２号溝、X－１号墓出土遺物

調査区全景（東から）

調査区全景（北西から）

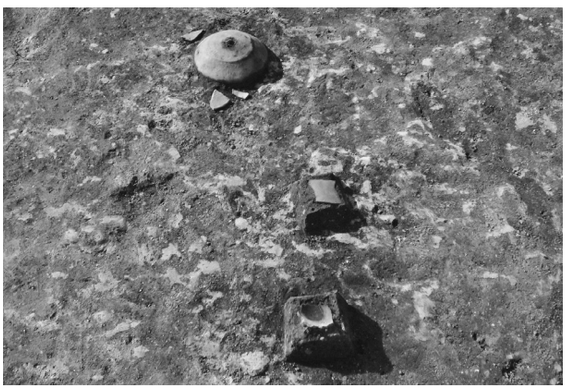
Ｈ－１号住居跡全景（北から）

Ｈ－１号住居跡炉検出状況（南から）

Ｈ－２・７号住居跡全景（西から）

Ｈ－３・４号住居跡全景（東から）

Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（南から）



Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｈ－８号住居跡全景（西から）

Ｈ－８号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｈ－９号住居跡全景（西から）

Ｈ－９号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－10号住居跡全景（西から）

Ｈ－11号住居跡全景（西から）

Ｈ－12号住居跡全景（西から）

Ｈ－13号住居跡全景（西から）

Ｈ－14号住居跡全景（西から）

Ｈ－15号住居跡全景（西から）

Ｈ－15号住居跡竈全景（西から）

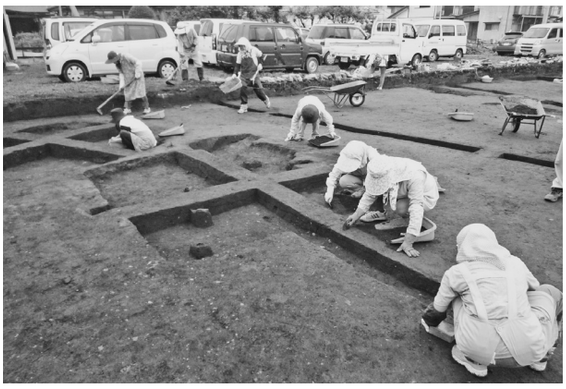
Ｈ－16号住居跡全景（西から）

Ｉ－１号井戸全景（西から）

Ｄ－１号土坑全景（南から）

Ｄ－２・３号土坑半裁状況（南から）

Ｘ－１号遺物出土状況（北から）



調査風景（南から）

調査風景（東から）

H-1-3

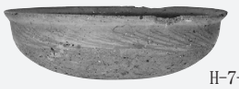
H-1-4

H-2-1

H-4-1

H-5-1

H-7-1


H-7-2

H-7-3

H-7-4

H-7-5

H-8-1

H-8-2

H-8-3

H-8-4

H-8-5

H-8-6

H-8-7

H-8-8

H-8-9

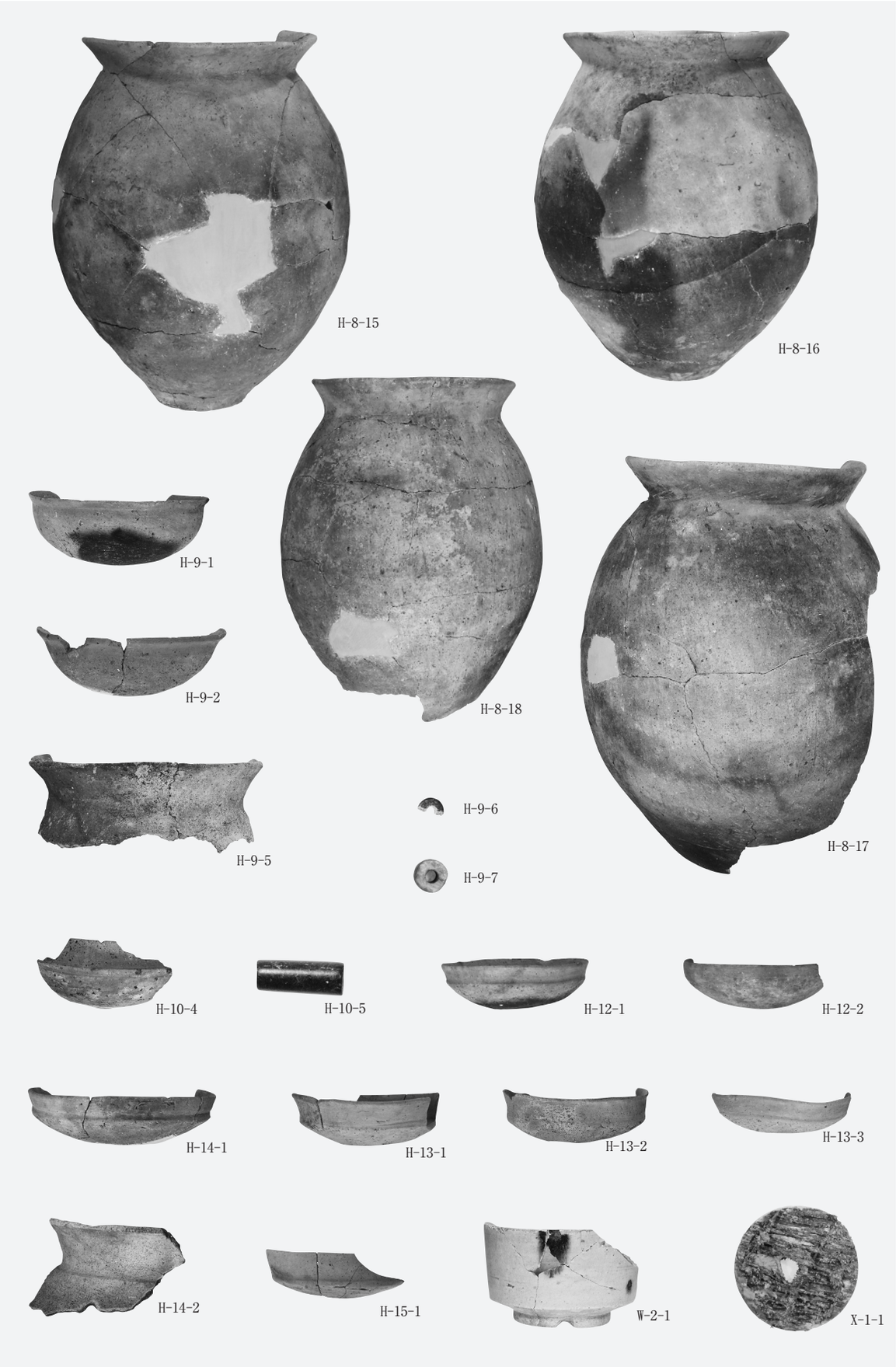
H-8-10

H-8-14

H-8-12

H-8-11

PL.6


H-8-15
H-8-16
H-9-1
H-8-18
H-9-2
H-8-17
H-9-6
H-9-5
H-9-7
H-10-4
H-10-5
H-12-1
H-12-2
H-14-1
H-13-1
H-13-2
H-13-3
H-14-2
H-15-1
W-2-1
X-1-1

報告書抄録

ふりがな	ろっくいせきぐんNo.5
書名	六供遺跡群No.5
副書名	前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	−
シリーズ名	−
シリーズ番号	−
編著者名	神宮　聡・山田誠司
編集機関	技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	2009年12月28日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
六供遺跡群(ろっくいせきぐん)No.5	前橋市六供町(まえばししろっくまち) 198-9ほか	10201	21H47	36°22'14"	139°4'34"	20090615 20090717	700㎡	区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
六供遺跡群No.5	集落	古墳 中近世	住居　16軒 土坑　3基 溝　2条 井戸　1基 墓　1基	土師器 須恵器 陶器 磁器 鉄製品	

六供遺跡群No.5

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009年12月18日　印刷
2009年12月28日　発行

発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社